

三協立山グループ

CSR 報告書 2014

Sankyo-Tateyama Group
Corporate Social Responsibility Report



Contents

ごあいさつ	P.1 ~	CSR活動の推進	P.13 ~
[特集1] ツインリーフの森づくり	P.3 ~	社会性報告	P.17 ~
[特集2] 植物工場	P.5 ~	商品における取り組み	P.25 ~
[特集3] 女性活躍の職場	P.7 ~	環境への取り組み	P.31 ~
[特集4] モバイルブリッジ	P.9 ~	第三者意見	P.48 ~
[特集5] SACLAB(サクラボ)	P.11 ~	三協立山概要	P.49 ~

「企業活動を通じて 社会の役に立ち、 必要とされる 会社であり続けます」

2014年 8月



代表取締役会長
藤木 正和



代表取締役社長
山下 清胤

わたしたちの使命

わたしたちの使命は、商品・サービスをはじめ、さまざまな企業活動を通じて、人々が暮らす快適な空間と、満足される生活づくりに貢献していくことであり、そこに企業としての存在意義があると考えています。

「Life with Green Technology ～環境技術でひらく、豊かな暮らし～」のブランドメッセージを掲げ、環境技術をキーワードとして「新しい価値」を創造します。また、プロフェッショナルとして信念を持って仕事に当たり、品質やサービスなどお客様ニーズに応え、事業活動を通じて社会に貢献します。

創ろう美しい地球を

わたしたちは、「創ろう美しい地球を」をスローガンに掲げ、環境基本理念・環境方針などを展開し、地球環境問題を最重要課題として位置づけ、取り組んでいます。

4つの環境方針である「事業活動における環境負荷の低減」、「環境配慮商品の充実・推進」、「環境リスクへの対応」、「環境コミュニケーションの促進」のもとで進めている諸施策は、着実に前進を遂げています。詳しくは、本CSR報告書をご覧ください。

地域社会とともに

近年、CSRを越える新しい企業のあり方として、CSV(Creating Shared Value)という考え方があります。その考え方は、「企業が地域社会と協力して価値を創造していくこと」というものです。

当社の本社がある富山県は、立山連峰の豊富な水資源と水力発電を利用してアルミ産業が発展し、アルミサッシのシェアは国内トップです。当社は、2015年春の北陸新幹線開業に合わせ、2014年4月から工場見学を一般希望者に開放し、産業観光の振興に寄与したいと考えています。

また、CO₂削減や豊かな水を育んでくれる森林への恩返しとして、2013年4月から本社のある高岡市と協定を結び、森づくり活動を開始しました。従業員とその家族のボランティア参加により、2,500本の苗木を植樹し、今後15年間に渡り、維持管理していきます。

信頼される会社に

わたしたちは、地域社会に根付いた活動を通じて「企業価値」をよりいっそう高めます。おかげさまで、2015年6月には創業55周年を迎えます。これからもわたしたちの経営理念である「お得意先・地域社会・社員の三者が協力し、共栄する」という協業の精神で取り組むとともに、人と地球にやさしい環境商品やサービスを提供することで、みなさまから信頼される会社を築いていきます。

Life with Green Technology

～環境技術でひろく、豊かな暮らし～

“Green Technology=環境技術”とは、「地球環境の改善に関わるあらゆる技術」のこと。例えば、省エネ、再生可能(自然)エネルギー使用、CO₂などの温室効果ガス排出削減、水質汚染防止などの環境負荷低減のための活動に用いられるさまざまな技術の総称です。

三協立山グループの技術力を集結し、環境配慮型商品・素材・空間によって新しい価値を創造し、人々の豊かな暮らしを実現する企業グループへ。



経営理念と行動指針

三協立山グループは、創業の原点である「お客様」「地域社会」「社員」の三者が協力し、共栄するという協業の精神に基づいた経営理念のもと、健全な企業活動を通じて社会に貢献していくことが、私たちの使命であると考えています。

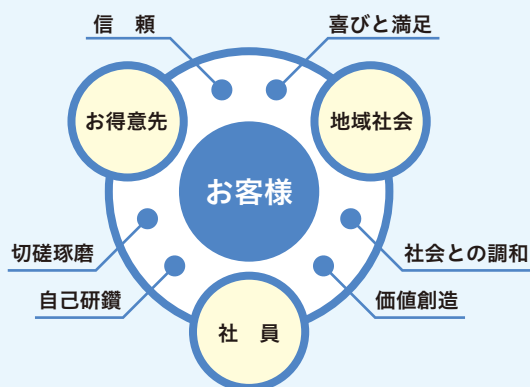
経営理念

お客様・地域社会・社員の協業のもと、新しい価値を創造し、お客様への喜びと満足の提供を通じて、豊かな暮らしの実現に貢献します。

私たちは

行動指針

- お客様満足**
1 常にお客様の視点に立ち、誠実に対応することで、信頼される存在であり続けます。
- 価値創造**
2 技術と知識の向上に努め、新たな製品の開発とサービスの提供にたゆまず挑戦し続けます。
- 社会との調和**
3 環境、地域社会、人との調和を考えて行動し、人と自然にやさしい企業であり続けます。
- 自己研鑽**
4 自己研鑽に励み、互いに切磋琢磨し、働き甲斐のある企業風土を育みます。



ツインリーフの森づくり



「企業の森づくり活動」がスタート、 2,500本の木を15年かけて育てます

三協立山は、生物多様性の保護、CO₂の削減および地域の自然保護活動に貢献することを目的に、富山県が推奨する「企業の森づくり」に参画し、高岡市と「森づくり活動に関する協定」を2013年4月に調印しました。

当社の事業では、たくさんのエネルギーと水を使用しており、CO₂の排出や産業廃棄物の排出などによって、環境に対して負荷を与えています。その社会的責任としてCO₂排出削減などに取り組んでいますが、さらなる地球環境への貢献として、CO₂削減や水質保全など、たくさんの恩恵を与えてくれる森林に対する感謝の気持ちを込めて、森林保全のボランティア活動を従業員とその家族で行っています。

森づくり活動の内容は、高岡市の雑木林(※市有地)3.5ヘクタールに、従業員とその家族で、毎年500本の苗木を5年間植樹し、根踏みや下草刈などの維持活動を15年間継続して森づくり活動を推進するというものです。

※「とやま・ふくおか家族旅行村」内の林内歩道沿い

時期	活動内容
7月	下草刈
11月	植樹
4月	根踏み

これまでの取り組み

- 2013年4月 富山県が推奨する「企業の森づくり」への参画として、高岡市と協定締結
- 2013年7月 (第1回)下草刈活動
- 2013年8月 社内募集により活動名称を「ツインリーフの森づくり」に決定
- 2013年11月 (第2回)記念式典&植樹活動
- 2014年4月 (第3回)根踏み活動



植樹(左:当社藤木会長)



どんぐりの鉢植え



根踏み

三協立山「ツインリーフの森づくり」が始まりました。

2013年7月より開始した、当社の森づくり活動を、「ツインリーフの森づくり」と名づけました。

“ツインリーフ”とは、当社のコミュニケーションシンボルです※。この活動名には、地域社会や自然環境と、私たちとのつながりを大切にしたいとの想いが託されています。

この活動を通じて、たくさんの恩恵を与えてくれる森に恩返しをするとともに、子供たちに自然へのやさしさや思いやりの心を育んでもらうきっかけになればいいと願っています。



記念式典

2013年7月の 下草刈を皮切りに、 活動を開始しました。

参加者の声 /

これからも自然環境の保全に少しでも役に立ちたいので、次回の植樹活動にもぜひ参加したい。

参加者の声 /

みんなで500本も植えて、どんぐりも植えて、なんか感動しました。すてきな森になってほしいです。子供の成長とともに、見守っていきたいです。

未来の子供たちのために、親子で何かできるチャンスはあまりないので、ぜひ参加して、子供に自然を守る大切さを感じ、考えてほしいと思いました。

参加者の声 /

またあの苗木がどれだけ大きくなっているか見に来たいです。

木は植えばなしではなく、小さいうちはすぐ手が掛かることがわかりました。

第1回(下草刈)



従業員ボランティアと指導員計27名が、林内歩道沿い約0.5haの笹や草を手鎌で刈りました。

第2回(記念式典、植樹)



高橋高岡市長はじめ来賓の方をお招きし、記念式典を開催しました。

続く植樹活動では、従業員とその家族のボランティア97名(うち、子供30名)が、コナラなどの苗木500本を植えました。その後、どんぐりを鉢植えし、将来の苗木を家で育ててもらっています。

第3回(根踏み)



参加者は81名(うち、子供36名)で、昨年秋季に植樹した苗木がしっかりと根付くよう根元を踏みしめました。

その後、伐採した木を利用してのしいたけの植菌と、割り箸鉄砲作りを行いました。

※当社のシンボルマーク ツインリーフ



ハート型の葉を持つ新芽のマークは、覚えやすく親しみやすいかたちです。

このマークを介して、お客様、お得意先、株主・投資家の皆様はもちろん、地域の方々や社員との良好なコミュニケーションを築けるように願っています。

人と人、社会と企業というつながりをフリーハンドの曲線でやわらかく表現し、シンボル化しています。「社会と私たち」「お客様と私たち」「環境と私たち」…など“心と心を結ぶシンボル”として位置付けています。



葉もの野菜1日100Kg、「植物工場」で生産 一般市場への販売も開始

地域の農業活性化を支援するため、当社では遊休施設を利用して完全人工光型植物工場「ツインリーフ・グリーン・ファクトリー」の開発に取り組んできました。2012年に運用を開始し、レタスなどを社員食堂に供給するとともにノウハウを蓄積してきましたが、このたび、安定生産の目処が立ったことから、「ツインリーフ」のブランド名で、中京圏での販売を開始しました。

「ツインリーフ・グリーン・ファクトリー」概要

当社植物工場は、三協マテリアル高岡工場の空き建屋内に設置された完全閉鎖水耕栽培型の植物工場です。規模は30m×20m×高さ2.8m、栽培棚は4段11列、1日100kgの生産能力を持っています。現在はリーフレタス、わさび菜などの葉もの野菜を栽培しています。工場内は24℃、湿度70%という野菜にとって理想的な環境を維持、また、LEDを用いて自然光よりも野菜に適した光を照射しており、露地やハウス栽培の約半分の栽培期間という超促成栽培が可能です。また、食品工場と同等レベルの衛生管理を行っており、育った野菜は洗わずに食べても安心です。

管理運営にあたるプロジェクトメンバーは4名、実際に野菜の手入れや収穫にあたるパートさんは7名と、総員11名の体制。植物工場の名にふさわしく、勤務時間、勤務シフトは完全に管理されています。

2014年2月からは本格的に葉もの野菜の生産を開始し、大半を中京圏に出荷しています。出荷量が天候に左右されず、また品質も安定しているため、市場ではより多くの出荷が待ち望まれています。

工場で培った「ものづくりのノウハウ」で、地域の農業に貢献していきます。



従業員への販売



植物工場の内部

高岡で生まれ育った当社には、地域に貢献したいという思いが強く根付いており、工場のもので培ったノウハウを地域の農業の発展に活かしてもらおうことが、この植物工場の狙いです。

まずはノウハウを蓄積しようと、2010年にプロジェクトを立ち上げ、社内公募でメンバーを募り、工場内の遊休施設を利用して密閉型の植物工場による野菜の栽培に挑戦しました。

当初は、外部から植物工場ユニットを購入して栽培を行ったのですが、商品になるものは作れませんでした。何の技術もノウハウもないのですから当然です。そこで、自分たちで野菜の育て方を一から勉強し、植物工場の試験設備一式を手作りで製作しました。この植物工場の設備というのは、施設の壁や天井、水耕栽培するための棚や水を循環させるための水槽やポンプ、生育のための照明、温度管理に必要な空調設備といったものですが、これらのほとんどは我々が日常的に行っているものづくりの技術で対応できるものでした。実際に栽培してみるとしっかりした野菜が育つようになりました。

やってみてわかったのですが、植物工場には設備に関する技術や知識と植物の育て方のノウハウが噛み合っていくことが不可欠です。野菜が発する細かな変化、いわゆる野菜の気持ちもわかるようになり、それぞれの野菜にとって理想的な光や養分を与えることで、最高の品質の野菜が育っています。試作した野菜を社員食堂で販売したところ「ドレッシングなしでも美味しい」と好評でした。

その後1日100kgの生産能力を持つ工場を自社設計で建設し、品質や収量が安定してきましたので市販を開始しました。今は受注生産でリーフレタス、わさび菜、スイスチャードなどを出荷しています。



富山は雪が多いため、露地はもちろんハウス栽培も難しい地域です。ですから今後、植物工場のノウハウを追求し、開発した植物工場の設備と蓄積してきた管理のノウハウを地域に還元することを通じたビジネスの展開を考えています。今後、販路拡大にも取り組み、収益性のあるビジネスモデルを確立し、地域の新たな産業として伸ばしていきたいと思っています。



総務人事統括室
植物工場事業化プロジェクト
プロジェクトリーダー
大川 幸夫



三協マテリアル高岡工場の空き建屋内に設置された植物工場

三協アルミ社 商品企画部 商品企画課
 (前列左から) 吉野 寿美枝 宮越 香織 角谷 千映
 (後列左から) 高橋 知佐 吉留 美貴子



ヒット商品に活かす「女性の目線」

当社では近年、女性のこまやかな感性を大切にして企画された商品が相次いでヒットし、高い評価を受けています。これらは、「アーチ形」や「葉っぱ形」といったなごみを感じさせるデザインを用いたり、お掃除の手間、収納のしやすさを考慮した「主婦目線」、あるいは子どもへの安全性に配慮した「ママ目線」で企画された「女性ならではの」ともいえる商品です。住宅建材の企画担当者が、それぞれの商品にこめた思いを語りました。



吉野 寿美枝さん

購買の意思決定に関わるのはほとんど女性、女性の思いを活かした商品を企画します。

○「ウッデリアVS」企画のポイント

花、葉っぱ、シャンパンの泡をモチーフにした小窓は、光を印象的に採り入れ、心地よい安らぎを感じられるデザインです。これからも自分自身が使う立場となり、共感してもらえる商品を考えていきたいと思えます。



インテリア建材
「ウッデリアVS」



宮越 香織さん

住まいや暮らし方の変化に合わせ、永く愛される商品を実現していきます。

○「ナチュレ・エル」企画のポイント

木もれ日のような光の演出とリースを飾ることで四季の移ろいを楽しんで欲しいという思いを込めました。

女性ならではの視点を生かし、住まいにも家族にも永く愛される魅力ある商品を提案し続けたいです。



玄関ドア
「ナチュレ・エル」



高橋 知佐さん

快適な暮らしをコンセプトに、派生商品を追求しています。

○「メイクグリーン」企画のポイント

鉢植えが掛けられるなどの室内からも楽しめる機能をプラスした格子は、外観デザインを損なわないように使いやすさにもこだわっています。生活者の視点に立って企画し、さらに新しい価値を提案できるような商品づくりを心がけています。



メイクファード
「メイクグリーン」



吉留 美貴子さん

安全で誰にも使いやすいことをもっと大切にしたいと思います。

○「セーフティ玄関引戸MK」企画のポイント

指はさみ防止のストッパーを搭載するために開閉確認のテストを何度も行いました。掃除のしやすさやアシンメトリー(非対称)なデザインも特徴です。「誰でもが使いやすいこと」をものづくりの基本にしながら、いつか大ヒット商品を生み出したいです。



「セーフティ玄関引戸MK」



角谷 千映さん

使う人のいろんな思いを丁寧にくみ上げ、カタチにしていきたいです。

○「ラフォースSD」企画のポイント

玄関を有効に使えるよう、袖の半分で光を採り入れ、半分は収納に使える枠種を追加しました。また、下枠段差も7.5ミリとし、出入りがスムーズになるようにしています。



スライディングドア
「ラフォースSD」

これからも、特に安全に配慮し、女性や子どもにも使いやすい商品を作りたいです。



すべての人が持てる力を発揮できる職場づくりに取り組み、多様な人材の活用を推進していきます。

北陸の地場産業では、企画や設計、デザイン、マーケティングなどで活躍する女性が多いとされています。女性が購入の決定権を握る住宅設備の業界にあって、当社でも女性社員が商品企画や設計現場で活躍することは、珍しいことではありませんでしたが、女性たちがもっとやりがいを持って仕事に取り組んでいくためには、解決すべき課題が山積していたことも事実です。

そこで、2005年に、ワーキンググループによって女性社員の仕事や会社への思いを集め、経営層が課題を認識した上で「女性が活躍できる職場の実現」を経営の重要課題とし、取り組みを始めました。

2007年6月、社内公募で人事部内に「女性活躍推進グループ」(現:多様性推進課)を設置。「仕事と家庭の両立支援」「女性のキャリアアップ支援」「多様な人材の活用支援」などの活動計画を策定。福利厚生制度の充実や利用しやすい雰囲気づくりといった、女性はもちろん誰もが力を発揮しやすい環境が整備され、女性目線を活かした商品開発も活発になってきました。

2014年6月 ドラえもんワーキンググループ発足

三協アルミ社は2014年6月から「ドラえもん」をキャラクターとする、社名認知度向上に向けた販売促進展開を開始しました。当社製品の重要なターゲットである女性のお客様に共感いただけるよう、女性従業員による「推進ワーキンググループ」を結成し、テレビCMなど、様々な施策の企画立案・展開において女性目線、感性を活かした取り組みを進めています。



2008年、女性社員と上司がグループディスカッションで互いを理解しあう「ウーマンキャリアカフェ」を開催



仕事と生活の両立を目指し「在宅勤務」を試行、2011年度に制度化



2013年9月12日
車両走行の公開実験の様子

災害復旧支援のための迅速展開 アルミフレームの仮設橋の開発に参画

自然災害（大雨、地震など）で壊れた橋を架けなおす前に、災害復旧や生活のライフライン確保のため、応急処置として建設するのが仮設橋です。これまでの仮設橋は、クレーンなどの重機が必要で、最低でも3週間程度の工期がかかります。もし、重機がなくても短時間で渡せるタイプの仮設橋が開発できれば、隔絶された地域への緊急物資輸送などに大いに役立つことが期待されます。そこで、シザーズ機構によって蛇腹のように伸び縮みし、主要部材にアルミ形材を用いて軽量化した「モバイルブリッジ」の開発が産学協同で進められています。

シザーズ機構のモバイルブリッジは、広島大学大学院工学研究院の有尾一郎助教の提案によって、広島大学と(株)アカシン、星軽金属工業(株)、(社)日本建設機械施工協会施工技術総合研究所が共同研究を進めてきました。2009年に長さ8mの人用を、2012年に長さ10mの軽自動車用を開発、そして現在、長さ20mのタイプが試作段階にあります。当社は、長さ20mのタイプから開発に参画し、アルミ製メインフレームの設計、製作を担当しています。

長さ20mのタイプは、およそ1年の開発期間を経て、2013年9月に(社)日本建設機械施工協会施工技術総合研究所の敷地において車両走行実験を実施。車両3台が同時に走行してもびくともせず、見事実験成功。2014年秋には、実際の川で架設実験を実施する計画です。

トレーラーで運搬でき、重機なしで架設が可能なシザーズ機構モバイルブリッジは、完成すれば世界中の被災地で役立つと期待されます。今後、さまざまな条件で実験を繰り返し、改良を行うと同時に、国や自治体などと協力して実用化を目指します。



ブルーシートを川に見立て、橋を展開

※シザーズ機構とは、2本の骨組み部材がX状に交差し、蛇腹のように伸縮する構造

世の中の役に立つ分野で開発に携わることができ、 大きなやりがいを感じています

橋などの土木構造物の建設には通常、鋼鉄やコンクリートが用いられ、アルミが使われることはありません。ですから仮設橋とはいえ橋梁の製作は我々には全く未知の世界でした。また反対に土木が専門の方々は普通、アルミ押出成型の知識を持っていることはありません。ですから橋の主要部材に求められる強度や断面形状をアルミの押出技術でどのように実現していくか、大学の基礎技術を基に、いかに実用的な技術に仕上げるかという作業がたいへんでした。

例えば、アルミ押出成型は断面形状によってメタルが流れやすい所、流れにくい所が生まれます。強度が必要なところ、不要なところを強度解析から厳しく精査していくと、断面に大きな肉厚差ができてしまい、成型が難しくなり、材料自体の強度のばらつきも生まれてしまいます。ですからプロトタイプ製作にあたり、大学から提示された断面形状がそのような場合は形状や肉厚をアルミに適したものに変更して提案しました。そしてフレーム単体だけではなく、構造体としての強度シミュレーションを何度も繰り返すことで、我々も自信を持てるフレームに仕上げていきました。

私の主な業務である放熱板の開発とは全く異なる分野で、しかも社会貢献にもつながる仕事ができ、たいへんやりがいを感じています。



三協マテリアル社
製品技術部 製品技術課
中村 繁央

部材(主桁)の強度試験



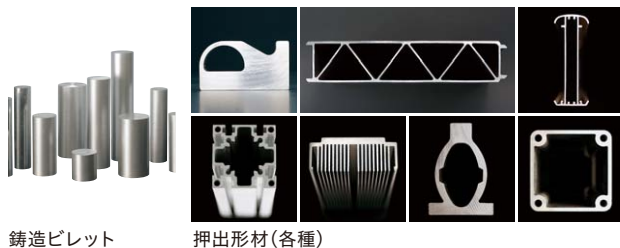
アルミ押出成型の様子



さらなる軽量化を目指して...

将来はモバイルブリッジの部材にマグネシウムを用いることも構想しています。

○当社販売材料例

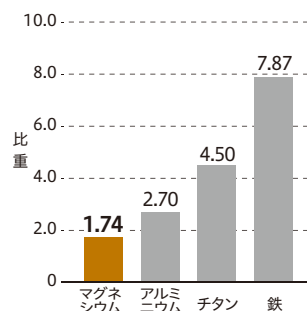


鋳造ビレット

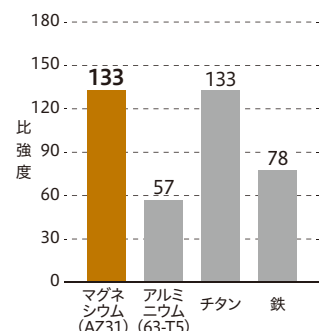
押出型材(各種)

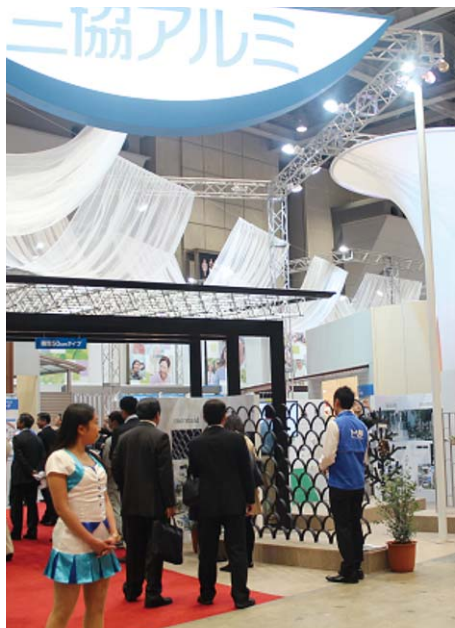
マグネシウム合金の特長：軽量で、比強度(引張強さ/比重)が高い

○各種金属の比重



○各種金属の比強度





建築家とコラボレーション 新発想のアルミ鋳物フェンスで、新たな敷地境界を提案

SACLAB (Sankyo Alumi Creative Laboratory: サクラボ)とは、2013年春からスタートした、国内外で活躍する建築家とともに、新しい住空間を考えるプロジェクト。都市・建築・環境における新しい関係性の考察とアルミ建材の更なる可能性を追求する取り組みです。"ものづくり"のプロセスに今までと異なる視点を取り入れることで、新たな価値を持った建材を生み出し、新しい住空間を創造します。

初めてとなる2013年度のテーマは、「建築家と考える“新しい境界”とエクステリアデザイン」。建築家による当社アルミ押出・鋳物工場の見学に始まったこのコラボレーションは、合同ミーティングでのコンセプト検討など、約1年の開発期間を経て、新商品「S.ボーダー」シリーズの発売という成果を生み出しました。

第一弾の商品は、地元高岡市の伝統産業を活かしたアルミ鋳物製のフェンスで、4月の展示会に出展しました。



SACLAB ホームページ
URL <http://www.saclab.jp/>

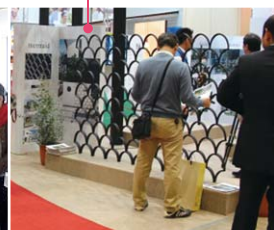
SACLABの歩み

2012年12月
ワーキンググループを発足

2013年5月
第1回合同ミーティング
テーマの「境界」について
提案・協議

2013年10月
中間発表展覧会を開催
東京六本木アクシスギャラリーにて、
コンセプトや原寸モックアップを展示

2014年4月
「Exterior exhibition 2014」に出展
第一弾としてSACLABから生まれた3組
の建築家の作品を出展



2013年4月
建築家によるアルミ押出・鋳物工場見学
鋳物を手に取って鋳肌の質感を確認

2013年7月
第2回合同ミーティング
コンセプトの提示と商品化に向けた意見の交換

2014年初旬
製品試作体を作成
コンセプトが具現化できているか確認



三協アルミ社
商品企画部 デザイン課 課長
高辻 宏

三協アルミ社
商品企画部 商品企画課
谷川 斗南

SACLABを、社内外を問わぬ「ものづくりの場」に育てていきます。

SACLABのねらいは、社外のさまざまな建築家と協同で商品を開発することです。自分たちでは発想できないデザインや新しい価値の創造につながれば、というものでした。まずは高岡の地場産業である鋳物技術が活かしやすいエクステリアで固定観念を破ろうと、第一弾はアルミ鋳物によるフェンスの開発に挑戦しました。

SACLABは私どもにとってメリットがあるばかりでなく、独立して活躍されている建築家にとっても、メーカーの技術や生産設備を用いて自らの創造性を発揮できる機会です。こうした機会はそれほど多くはないはずですから、期待されている建築家も多いと思います。

今回、参加していただいた建築家の方々には当社の技術に非常に興味を持っていただき、私どもの技術力を十分に活かせるような発想をしていただいたと思います。また提案されたデザインはいずれも我々では決して考えつかないもので、驚きは大きく、SACLABをやってみてよかったと実感しています。

SACLABは一過性のものではなく、継続性を持った社内外を結びつけるコラボレーションの場と考えており、現在、ウェブサイトを立てて今回の取り組みを発信しています。こうした取り組みを継続することで、SACLABが将来、我々メーカーと外部の建築家の両方にとっての新しい「創造の場」に育っていけばいいなと思っています。

自分たちの限界を超えるため、社外の建築家との協同作業に挑戦しました。

当社の開発担当は、製造工程も、販売方法も知っているのでも、自ら発想に限界を作ってしまうがちです。また、売れるものでなければならぬ、ということも制約になってきます。

そこで、こうした限界を乗り越えるため、我々とは違った視点を持つ外部の建築家の方々とのコラボレーション、つまり協同作業をやってみようということになったのです。第一回は、5組の建築家の方々に敷地境界のコンセプトづくりとデザインをお願いするようになりました。

工場見学や合同ミーティングの中では、建築家の方々の意欲が高く、具体的かつ素晴らしいご提案をいただくことができました。普通、フェンスという敷地と外部を遮断するものと考えがちですが、今回のものは「コミュニケーションを図るもの」「内と外を結びつけかけ」にしようというコンセプトが固まっていきました。

実際のものづくりの現場では、当社の製造限界を知ってデザインされた場合と異なり、設計や製造の担当者にもプレッシャーがかかり、高度な技術も必要でした。しかし、社内開発では却下されるようなデザインであっても、あえて挑戦したことで、学ぶべきことは多々ありました。無論、できあがったフェンスは、私たちだけでは思いつかない、新しい住空間の創造につながるものであったと喜んでいきます。

また、今回商品化されたフェンスはアルミ鋳物です。鋳物といえば高岡市の伝統産業ですので、鋳物の新しい可能性を開くという点で、地域にも貢献できたと思っています。

住む人が関わることでできあがる
「RING RING」
(リングリング)



デザイナー：
千葉 学
(千葉学建築設計事務所)

古来の文様を取り入れた
「mermaid」
(マーメイド)



デザイナー：
永山 祐子
(永山祐子建築設計)

有機的な樹木型フェンス

「kaede」
(カエデ)(上)
「momi」
(モミ)(下)



デザイナー：
納谷 学 + 納谷 新
(納谷建築設計事務所)

CSR※活動の推進

三協立山グループは、CSRを経営の最重要課題と位置付け、CSRの推進により、社会からの信頼確保に努めています。

※CSR: Corporate Social Responsibility (企業の社会的責任)

CSR活動実績

CSRにかかわる活動は、関連部署で各々推進しています。2013年度の主な活動項目は、下表の通りです。2014年度も関連部署でCSR活動に取り組み、レベルアップを図っていきます。

CSR憲章	要素	活動項目	目標・方針など	実施事項	自己評価	該当ページ
健全な企業活動	CS (Customer Satisfaction: 顧客満足)	顧客満足向上活動の推進	CS意識向上と行動の徹底	CS単位活動に276チームがエントリーして活動を推進 優秀事例を表彰して社内公開し、水平展開を図る		P21
	顧客要望に応える商品の提供	使いやすさを追求した商品の提供	UD設計検討書、ユーザーチェックリストでの評価実施 (UD:ユニバーサルデザイン)	UD設計検討書、UDユーザー評価会で26テーマについて評価を実施		P25
	コンプライアンス	CSR・コンプライアンスの再徹底	CSR・コンプライアンスの理解度の向上	階層別研修会、生産管理者向け研修会を実施 コンプライアンス小冊子を改訂、グループ全従業員に配布		P15
	コーポレートガバナンス	内部統制の有効性向上	内部統制委員会活動定着化の推進	年2回、内部統制委員会を開催 会社法内部統制システム 基本方針制定範囲の子会社について制定・改定を完了		P14
	リスクマネジメント	リスク管理の推進	内部統制委員会による半期毎の状況確認	半期毎の内部統制委員会でリスク再評価結果を報告		P14
	情報セキュリティ	お客様情報の管理の徹底	お客様情報漏洩事故発生件数ゼロ	個人情報などの漏洩事故の発生無し 携帯電話や機密データの取り扱いに対して啓発		P16
社会との調和	コミュニケーション	ステークホルダーとのコミュニケーションの充実	四半期決算に則した投資家対応の強化	機関投資家への戸別訪問や個人株主向け会社説明会を開催 四半期ごとの決算短信をホームページに掲載		P20
	社会貢献	社会貢献活動を重んずる企業風土の醸成	助成の推進	地元野球球団、高岡七夕まつりなどへ協賛金拠出 フィリピン台風義援金を拠出。東日本大震災遺児に対し、あしなが育英会へ寄付金拠出		P19
		地域に根ざした社会貢献活動の推進	積極的な参加	産業観光振興のための工場見学受け入れ 高岡市自衛消防訓練大会、富山県「交通安全チャレンジ1・2・3運動」などに参加		P17 ~P18
環境との調和	環境保全	環境保全活動の推進	CO ₂ 排出量を2011年度比 2013年度生産量原単位全体で2%削減	2013年度CO ₂ 排出量原単位は、2011年度比6.6%削減		P35 ~P36
	環境商品・技術	環境配慮商品の開発推進	断熱性能向上商品、換気・通風に配慮した商品開発の推進	断熱3商品、自然採風4商品を開発		P26 ~P28
		省エネ・代替エネルギー対応商品の開発	LEDを光源として使用したサイン、什器の商品化展開	LEDを光源として使用した外照式サイン、充電式スタンドサインを商品化		P29
人間尊重	組織・人づくり	ダイバーシティの推進	障がい者雇用率2.0%以上	障がい者雇用率2.0%		P23
	安全衛生	心身の健康度の向上	定期健康診断受診率100%	定期健康診断受診率100%		P24

目標・方針など達成 目標・方針など概ね達成 目標・方針など未達成

コーポレートガバナンス※

三協立山グループは、株主およびその他ステークホルダー、そして社会からの信頼を築き、ともに発展していくことを経営の基本方針としており、そのために、コーポレートガバナンスの強化を図り、企業価値の向上に努めることが、経営の重要課題の一つと位置づけています。

具体的には、グループ経営計画および経営戦略を策定し、グループ会社の指導・監督を行うとともに、ステークホルダーへの説明責任を果たし、透明性を確保していくことが当社の重要な役割であると認識しています。また、当社が担う事業領域と機能の中で明確な事業責任を負い、市場競争力をより一層強化することでグループ全体の価値向上を図っていきます。

※コーポレートガバナンス：企業統治

コーポレートガバナンス体制の状況

取締役会、経営会議

取締役会は現在、社内取締役8名で構成され、毎月1回以上開催しています。当社グループおよび当社の経営に関する重要事項を決定するとともに、基本的な経営戦略の決定と経営全般の監督、グループ全体の経営課題および子会社各社の重要事項について審議を行っています。当社は、執行役員制・事業役員制を導入し、業務執行責任の明確化と意思決定の迅速化を図っています。また、事業年度に関する責任を明確にし、緊張感を持って経営にあたりるとともに、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を構築するため、取締役および執行役員ならびに事業役員の任期を1年としています。取締役会は取締役社長が議長となり、取締役、監査役に加え、事業の状況把握を迅速に行うため、当社の社内カンパニーである三協アルミ社、三協マテリアル社、タヤマアドバンス社の各カンパニー社長が出席しています。

また、当社は取締役構成員のほか、各事業責任者および部門統括責任者で構成する経営会議を設置し、当社経営の基本方針に関する事項ならびに個別重要事項についての審議、決定と共有を行っています。

内部統制、リスク管理体制の状況

内部統制システムの構築・運用、J-SOXへの対応

当社は、取締役会決議による「会社法内部統制システム基本方針」に従い、グループ全体で内部統制システムの充実を図っています。

当社および当社グループの実効性ある内部統制システムの構築を図るため、経営監査部が事務局となり、経営会議の中に内部統制委員会を設置し、諸施策の審議および実施状況の管理を行っています。また、金融商品取引法に基づく内部統制報告制度(J-SOX)に対応するため、財務報告の信頼性を確保する内部統制の評価ならびに整備推進を経営監査部が継続的に実施しています。

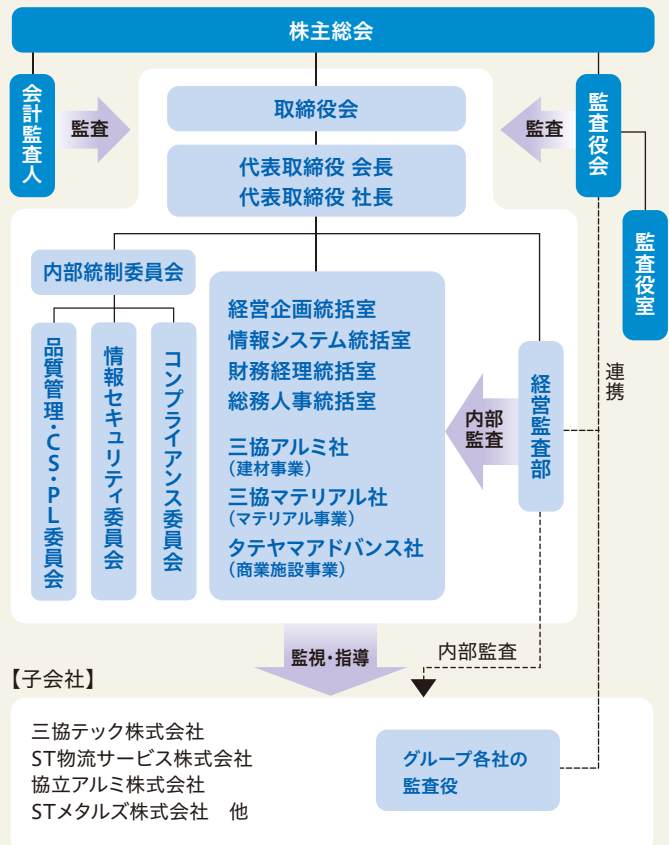
リスク管理の基本的考え方と体制の構築

当社は、リスク管理の実践を通じ、事業の継続・安定的発展を確保していくことをリスク管理の基本方針としています。

当社は、内部統制委員会にて、リスク管理の方針・方向性・計画・状況把握と是正措置などの審議を行い、当社グループ経営における一切の不確実性を管理しています。

また、当社に関わる不測事態の発生に対しては、グループで連携し、迅速かつ適切に対応策を講じるため、緊急時の組織体制を含めた危機管理規程および同マニュアルを整備し、損失ならびに損害を最小限に抑える体制を整えています。

コーポレートガバナンス体制



監査役監査、内部監査の状況

当社は、監査役制度を採用しています。3名の社外監査役を含む5名の監査役は、取締役会などの重要な会議・委員会に出席し意見を述べるなど、業務執行の全般にわたって監督機能の充実に努めています。また監査役会は子会社の監査役と連携を図るとともに、経営監査部が子会社の内部監査を行うことで、グループ各社の業務運営に対する監査を定期的に実施しています。また、監査役室を設置し、監査役の職務全般を補助しています。

コンプライアンスの推進

コンプライアンスは、三協立山にとって経営の重要事項の一つであると捉え、推進専任部署を2004年7月に設置しました。三協立山のコンプライアンス推進担当役員を委員長とする「三協立山コンプライアンス委員会」を設け、コンプライアンス推進基本方針に基づき、活動を進めています。

【コンプライアンス推進 基本方針】

- ① 全役職員が当社グループの社会的な使命と責任を認識し、法令・企業倫理・社内規程を誠実に遵守します。
- ② コンプライアンスに最大の価値を置き、利益とコンプライアンスが相反する場合には、コンプライアンスを優先させます。
- ③ 外部から不正・不当な要求がなされても、断固として拒否します。
- ④ グループ内でコンプライアンスに関する問題が生じた場合には、直ちにこれを是正します。

今年度活動報告

各種研修・教育活動の実施

職種別の研修として、生産に係る業務を行う上で、法令に準拠した対応方法の習得を目的とした「生産管理者向け研修」を実施しました。

また、新入社員研修、階層別研修、および新任支店長・工場長研修を実施し、社会人として求められる行動やコンプライアンスの本質などについて考え、習得する機会を設けています。

内部通報制度『外部通報・相談窓口』の開設

三協立山コンプライアンス内部通報制度(通称:コンプライン)において、従来の社内受付窓口に加え、外部通報・相談窓口を開設しました。

通報窓口を広げることで、より通報・相談しやすい環境となり、従業員が安心して働ける職場づくりにつなげます。

コンプライアンス意識の啓発

コンプライン制度の正しい理解の浸透と有効利用の促進のため、従業員より標語を募集しました。さらに、優秀賞を掲載した啓発ポスターを作成し、各事業所職場に貼り出しています。

また、「コンプライアンス行動基準」を掲載した小冊子を更新し、グループ各社を含めた全従業員に配布しました。これらによって、従業員一人ひとりのコンプライアンス意識啓発を行っています。



生産管理者向け研修



階層別研修



コンプライアンスポスター

コンプライアンス小冊子

情報セキュリティの確保

三協立山グループでは、情報セキュリティの確保に関して、お客様の個人情報や取引情報の保護を最優先に取り組んでおり、従業員一人ひとりが情報セキュリティに対する適切な知識と行動を身に付けるよう実践しています。

情報セキュリティマネジメント体制

三協立山では、情報システム担当役員を委員長とする「情報セキュリティ委員会」を設立し、グループ全体の活動状況・課題を把握するとともに対応方針を決定しています。また、同委員会での決定事項は、実行・推進部門である「情報セキュリティ主管部門」のもと、各部門に配置された約300名の「情報セキュリティ責任者」および「情報セキュリティ推進者」によって、全従業員に周知徹底を図っております。

※当グループでは、2013年度、重大なセキュリティ事故は、発生しておりません。

情報セキュリティ確保への主な施策

1. 教育・啓発

昨年度に引き続き「携帯電話からの情報漏洩の防止」を重点施策として取り組みました。携帯電話の利用希望者には、利用ルールを理解してもらうためにeラーニングの受講を義務付け、会社から貸与する携帯電話には、紛失・盗難時に遠隔操作でロックやデータ消去を行えるツールを導入しています。

2. 情報漏洩対策

社外に持ち出しするモバイルパソコンには、暗号化ソフトをインストールし、万が一盗難にあっても第三者に保存されているデータを盗み見されないよう対策をとっています。また近年大容量化が進みセキュリティリスクが高まっているUSBメモリについては、原則利用を禁止としています。

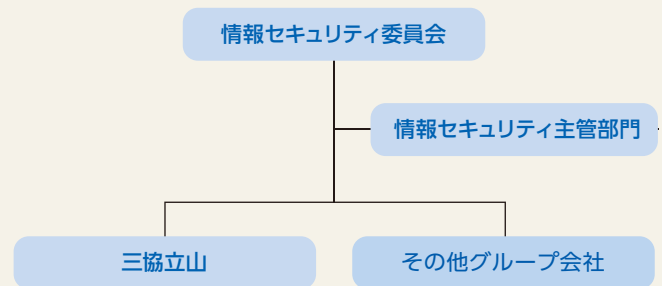
3. アクセス権の適切な管理

社内からの情報流出リスクを低減するために、サーバ資源へアクセスする時に入力するユーザーIDや、アプリケーションを利用するために使うIDに関して、定期的な再検証(利用者と権限の確認)を行っています。

4. 物理アクセス対策

ホストコンピュータが設置されているマシン室を「アクセス管理エリア」に指定し、部外者や不審人物などを入室させないよう、指紋認証電気錠による入出管理設備や監視カメラを設置しています。また情報センタービルには、赤外線センサー監視装置を設置することで、執務者不在時のセキュリティを強化しています。

情報セキュリティマネジメント体制(2014年6月1日)



Voice

セキュリティ対策について

昨今、サーバが不正アクセスなどのセキュリティ攻撃を受ける危険性が増しています。当社では、利便性を確保しながら、不正アクセスによる情報流出などのリスクを抑えるため、メールや共有ファイルなど種類に応じてセキュリティレベルを設定し、当社で運用しているサーバに適用しています。また、セキュリティレベルが正しく設定されていることのチェックも定期的に行い、情報セキュリティの確保に努めています。

情報システム統括室
システム企画部運用課
杉山 裕也



地域社会とともに(1)

三協立山グループは、地域社会の一員として、社会貢献活動やコミュニケーション活動など、地域との共生に向けた活動に積極的に取り組んでいます。

地域社会の一員として

アルミ工場見学の受け入れ

2015年春の北陸新幹線開業を控え、産業観光を通じた地域活性化策の一環として、2014年4月より一般のお客様へのアルミ工場見学の受け入れを開始しました。

「鋳造」「押出・表面処理」「加工・組立」の3工場の見学が可能であり、アルミ型材を60mの長さに押し出す工程や型材を薬品プールに漬けて表面処理を行う工程など、ダイナミックな作業現場を間近に見ることができます。

これまでに県内外から幅広い団体の方にお越しいただき、富山を代表するものづくりのアルミ産業をアピールしています。



アルミ型材押し出工程



押し出後の熱処理工程

三協立山株式会社 アルミ工場見学

アルミ製品の製造工程の見学ができます！

当社のアルミ工場は、富山県西部に10ヶ所あり、2014年4月から、射水市にある一部の工場で、一般のお客様への工場見学が可能になりました。

ビルや住宅の窓がどのように作られているのか、ご興味のある方は、ぜひ当社アルミ工場へお越しください。

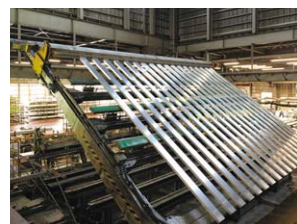
近くには、新湊大橋や海王丸パークなどの観光スポットもあります。

【三協立山ホームページ「工場見学」】

<http://www.st-grp.co.jp/company/factory.html>



新湊工場SANTIC



表面処理工程(吊り)

「ごみゼロの日」清掃活動の実施

当グループの社会貢献活動の一環として、「ごみゼロの日(5月30日)」にあわせて全国の支店・営業所・工場および本社事業所周辺の清掃活動を実施し、全国で1,000名を超える従業員がボランティア参加しました。

今後も、社員一人ひとりがごみゼロ社会の実現に向けてごみを出さない、捨てない、または、分別意識をもって資源として有効利用を図る、などの環境保全意識の醸成を図っていきたいと思います。



清掃活動(三協アルミ富山支店)

「インターンシップ」への受け入れ

当社では、毎年、学校などのインターンシップ事業に協力し、学生たちを受け入れています。(2013年度は高校から大学までの学生10名)

仕事とはどういうものなのか実際に体験することにより学んでいただけたものと思います。



技術部での試験実施

地域社会とともに(2)

地域社会の一員として

高岡市金屋町に「竹平政太郎記念室」を開設

2014年3月、三協アルミの創業者・竹平政太郎氏の旧居であり、昭和3年に起業した竹平着色所の建屋であった縁の地に、竹平氏のあゆみや会社の歴史を紹介したパネル、胸像や生前愛用していた碁盤などを展示した「竹平政太郎記念室」を開設しました。

同所は、高岡銅器協同組合のブランド「KANAYA」のショールーム兼事務所として現在使用されている建屋の2階で、当社の創業間もない頃の古いサッシなどが複数残っており、当社の歴史を知ってもらう上でも貴重な資料であることから、同室開設の運びとなったものです。



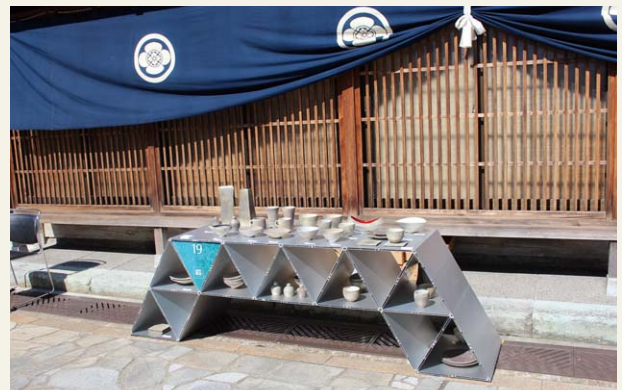
当社山下社長より開設の挨拶



金屋町楽市inさまのこ2013に「ポリゴニウム」を提供

2013年9月、「金屋町楽市inさまのこ2013」が高岡市金屋町で開催されました。

当社が提供した「ポリゴニウム」(アルミ型材製ディスプレイシステム)は情緒ある町並みと調和した展示用什器として、鋳物・漆器・ガラス・陶磁器などの工芸作品を際立たせました。



アルミのシンプルなポリゴニウムは石畳やさまのこ(千本格子)とも調和

富山県並行在来線経営安定基金に係る感謝状を授受

2013年11月、「富山県並行在来線経営安定基金に係る感謝状贈呈式」が行われ、当社が富山県より感謝状を受けました。

これは、2015年春の北陸新幹線開業に伴い、経営分離される並行在来線をはじめとする公共交通活性化のために、富山県が設置した同基金への協力に対し贈られたものです。



石井富山県知事より感謝状を受ける

「ノーマイカーデー」の実施

当グループは、2002年よりノーマイカーデー宣言事業所として県や市の実施運動に参画し、社員に理解と参加、協力の呼びかけを継続して行っています。(グループでは毎月第二水曜日をノーマイカーデーとして設定)

2013年度高岡市民ノーマイカーデー実施結果

「高岡市民ノーマイカーデー」実施日	第23回 2013.10.2	第24回 2014.4.2
参加対象者数	906人	911人
ノーマイカー実施者数	104人(12%)	101人(11%)
削減延べ往復距離数	927km	1,068km
削減CO ₂ 排出量	214kg-CO ₂	247kg-CO ₂

地域社会とともに(3)

社会貢献活動

フィリピンに義援金を寄贈

2013年11月にフィリピン中部を襲った台風30号による被災者救済および被災地復興のため、三協立山グループおよび関連会社の従業員からの募金と拠出金をあわせて、679万円の義援金を贈呈しました。

2013年12月に、日本赤十字社富山支部、およびフィリピン赤十字社、PEZA(フィリピン経済特区庁)、被害の大きかったレイテ島のタクロバン市などを訪問し、目録を手渡しました。



目録贈呈の様子
(左)日本赤十字社富山支部にて
(右)PEZAにて



野球BCリーグ公式戦「富山サンダーバーズ」 三協立山グループ冠試合を開催

2014年5月、当グループがオフィシャルスポンサーとして応援している「富山サンダーバーズ」のBCリーグ公式戦が、「東日本大震災遺児育英支援冠試合」として開催されました。

当日は1,315人が来場し、これにあわせ当グループより入場者×100円を「あしなが東日本大震災遺児支援募金」として、あしなが育英会へ寄贈しました。



声援を送る観客席



始球式で投球する
当社山下社長

富山県警察本部に「カギかけキャラバンキー」を贈呈

2014年6月、富山県警察本部にて「カギかけキャンペーン開始式」が行われ、当社で製作した「カギかけキャラバンキー」を贈呈しました。

県警で製作したキャラバンキーが老朽化したため、当社社会貢献活動の一環として新しいキャラバンキーを製作し、寄贈したものです。



櫻潭県警本部長へ
「カギかけキャラバンキー」贈呈



カギかけキャンペーン開始式の様子

◆カギかけキャンペーンとは

自転車や住宅の無施錠被害率が全国と比べ高い水準にある富山県が、毎年行っている施錠促進運動。キャラバンキーをリレー形式(県下15警察署)でつなぎながら、自治体、地域住民を巻き込んだカギかけ啓発行事を展開し、県民に防犯意識の向上を呼びかけるもの。

「献血」の実施

当グループは、毎年富山県赤十字血液センターの献血活動に協力しています。(年3回4、8、12月に実施)

さまざまな社会貢献活動の中でも、献血は身近で人の生命に関わる大切な問題であると認識しており、従業員に対して自主的かつ積極的な参加を呼びかけています。

2013年度献血実績

	夏の献血 2013年8月	年末の献血 2013年12月	春の献血 2014年4月
受付者数	237名	285名	281名
献血者数	207名	244名	262名
200ml献血者数	23名	27名	26名
400ml献血者数	184名	217名	236名

「エコキャップ運動」

「ペットボトルのキャップで世界の子供にもワクチンを届けよう」との活動趣旨に賛同し、NPOエコキャップ推進協会へキャップの寄付を行っています。



キャップの寄付

株主とともに

三協立山は、グループ全体の経営基盤の強化と収益力向上によって、継続的な企業価値の向上を図り、株主の皆様のご期待に応えていきたいと考えています。

IR※活動

IR活動は、広報・IR部が担当しており、株主、投資家をはじめとするあらゆるステークホルダーの皆様へ、当グループの企業活動に対する理解を促進し、適正に評価していただくために、企業情報を適時・適切に開示しています。

当社ホームページには、決算短信、有価証券報告書(四半期報告書)などの決算開示資料に加え、半期ごとに決算補足説明資料、株主通信などを掲載し、投資家の皆様がいつでも容易に閲覧できるようにしています。

機関投資家・アナリストに対しては、半期ごとにスモールミーティングを開催、四半期ごとに個別ミーティングを開催しており、2013年度は国内で約100回実施しました。また、定期的に証券会社主催の会社説明会に参画し、個人投資家の皆様への当社の理解促進に努めています。2013年度は北陸を中心に計3回行い、合計約120名の皆様にご参加いただきました。

投資家およびアナリストの皆様からいただいたご意見や助言などは、適宜、経営幹部にフィードバックし、今後の経営に活かすように努めています。

※IR(Investor Relations、インベスター・リレーションズ)：

企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な情報を適時、公平、継続して提供する活動全般



個人投資家向け会社説明会

情報開示の考え方

当社は、金融商品取引法などの諸法令ならびに東京証券取引所の定める有価証券上場規程(以下「上場規程」という)に準拠した情報開示に努めるほか、当社をより理解していただくために有効と思われる情報についても、迅速に開示します。

なお、上場規程に該当する情報は、同規程に従い、東京証券取引所の提供するTDnet(適時開示情報伝達システム)を通じて開示します。上場規程などに該当しない情報についても、投資判断に影響を及ぼすと思われる場合は、その重要度および緊急性に応じて、適宜、適切な方法で速やかに開示します。

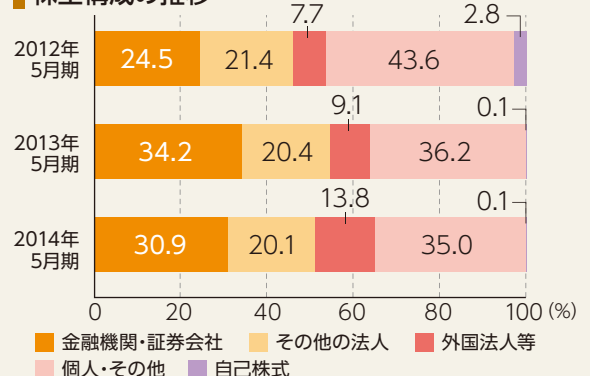
株主構成 (2014年5月31日現在)

発行可能株式総数 150,000,000株
発行済株式の総数 31,554,629株
株主数 23,280名

所有者別株式分布状況 (2014年5月期末)

区分	株式数	比率
政府・地方公共団体	0	0.0
金融機関	9,462,268	30.0
証券会社	302,225	1.0
その他の法人	6,356,779	20.1
外国法人等	4,342,977	13.8
個人・その他	11,056,728	35.0
自己株式	33,652	0.1
計	31,554,629	100.0

株主構成の推移



お客様とともに(1)

三協立山グループでは、お客様への喜びと満足の提供こそが、豊かな暮らしの実現に貢献できるものと認識し、従業員一人ひとりが「CS※ポリシー」の実践を心がけ、日々の業務に取り組んでいます。

※CS(Customer Satisfaction) = 顧客満足

お客様にご満足いただくために

三協立山は、信用と信頼を大切にしています。信用と信頼は、日頃の企業活動において消費者様やお得意様を含めた全てのお客様の期待に応えることで、少しずつ醸成されていくものと認識しています。そして、企業活動の一つひとつがお客様満足につながることを念頭において、従業員一人ひとりが日々の業務に取り組んでいます。

顧客満足に関する活動方針は、「顧客満足向上委員会(CS委員会)」を通じて、品質向上に関する活動方針は「全社品質管理委員会」を通じて決定されて取り組んでいます。当社のカンパニー部門の三協アルミ社、三協マテリアル社、タテヤマアドバンス社と、グループ内のST物流サービスとの間では定例の連絡会を設け、品質の向上に関する活動の連携を図っています。また、消費者様に安心してご使用頂けるよう、製品の安全に関わるPL(製造物責任)対応として、「PL委員会」を設置し、前出の2つの委員会と連携しつつ、信用と信頼の維持向上に努めています。

※体制図は、P.14「コーポレートガバナンス体制」参照

CSポリシー

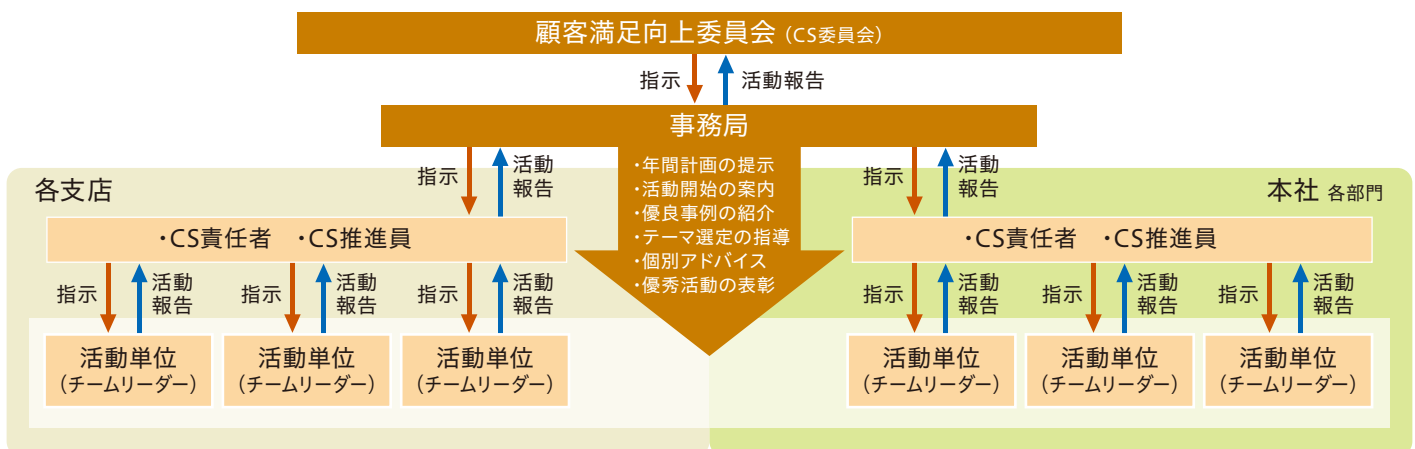
CSポリシーは、経営理念、行動指針とともに携帯用カードとして当グループ内に勤務する役員・社員・派遣社員など全員に配布され、個人個人の指針としています。

- お客様満足を第一とし、“常にお客様の立場・視点で考え行動”しよう。
- お客様の意見に耳を傾け、“期待や問題点をしっかりと把握”しよう。
- お客様の満足実現に向け、“創意・工夫で改善、提案”しよう。
- お客様の“満足こそが仕事の成果”であると心がけよう。
- お客様の満足を、“共にわかち合えることに感謝”しよう。

私たちは常にこの指針に従い、
日常の企業活動の中でお客様満足の
向上に努めていきます。

CS活動状況

当社では、「CSポリシー」の実践を目的に「CS単位活動」を行っています。この活動は、日々の業務をお客様の立場・視点で考え行動し、CSを実践していく活動です。2002年より開始し、2013年度は276単位(チーム)が参加しました。この取り組みを通じて、日頃の業務の中に「CSポリシー」をより一層根付かせるとともに、グループ内へのベストプラクティス(優秀事例)の水平展開を図ることで、「お客様満足」を目指します。



お客様とともに(2)

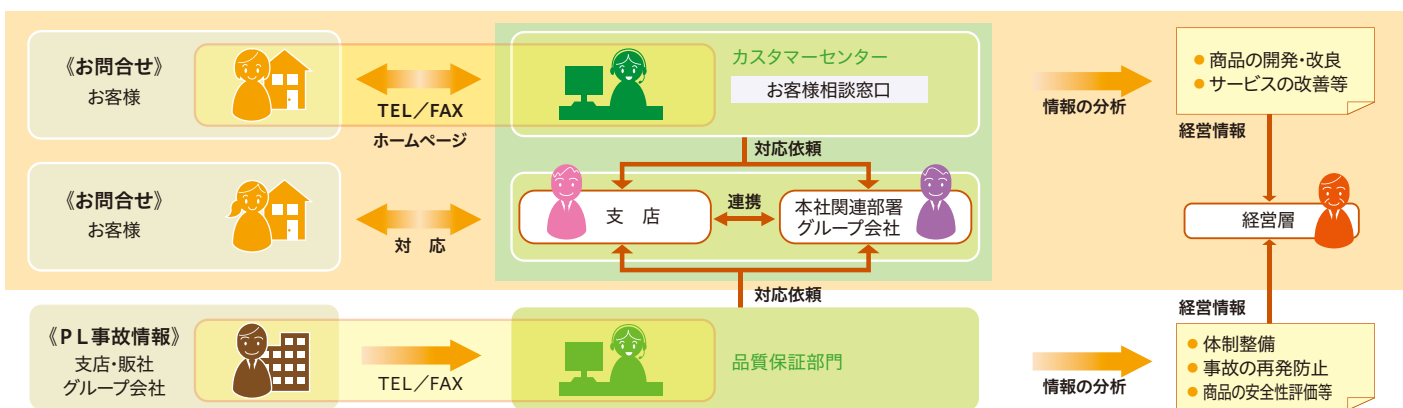
お客様の声(VOC)を生かすために

三協立山は、消費者様やお得意様を含めたお客様からの相談窓口としてカスタマーセンターを設置し、電話、FAX、ホームページなどによりお問合せをいただけるようにしています。相談窓口では、会社を代表する窓口として信用と信頼を担っているという自覚をもち、適切な対応を心がけ、丁寧で迅速な対応に努めています。

また、「お客様満足第一」で一つひとつのお問合せを真摯に受け止め、日々お客様から寄せられる「お客様の声※(VOC)」を系統立てて整理・分類し、さまざまな角度から分析を行いつつ、課題を抽出しています。これらの課題を経営情報として経営トップや関係部署へフィードバックを行い、商品の開発・改良およびサービスの改善などに役立てています。「消費者満足」「顧客満足」のさらなる向上を目指し、ホームページやカタログなどの情報提供ツールをよりわかりやすく、ニーズに応えられる情報となるよう改善に努め、顧客接点の強化に取り組んでいます。

※VOC:Voice of Customerの略

●お客様情報の処理フロー



安心してご使用していただくために

当社は、製品の安全性確保とおお客様の安全確保に関する法令や品質に関する基準を遵守しています。

開発段階では、リスクレベルの「見える化」による安全性の評価(R-Map※を用いたリスク評価)を行い、使う人の立場に立って、より使いやすい、安全な商品作りに取り組んでいます。また、取扱説明書や注意ラベルに限らず、カタログの記載内容については、景品表示法、消費者基本法などの各種法規に準拠しているかどうか、さらに、所属工業会のガイドラインに沿っているかどうかについて事前にチェックして、お客様に必要な情報を明確でわかりやすく表示するよう取り組んでいます。

当社製品に関わる事故が発生した場合、すみやかに必要な関連情報を収集して、お客様の視点に立った迅速で適切な事故処理を行うとともに、重大な製品事故については、消費生活用製品安全法などの法令に基づいて、所轄官庁へ報告を行います。

また、事故の原因究明と再発防止を徹底し、製品の安全確保に努めていきます。

※R-Map:危害の程度と発生頻度から、リスクの大きさを評価する手法の一つ。

従業員とともに(1)

三協立山は、お客様への喜びと満足を提供するために、新しい価値を創造できる人材の育成と、安全で健全な働きやすい職場づくりを目指しています。

ダイバーシティの推進

2007年度に発足したダイバーシティ推進の専任部署(多様性推進課)が中心となり、多様な人材が活躍できる風土作りに向けて、さまざまな取り組みを行っています。

女性従業員の活躍推進

2008年度より、女性従業員のキャリア支援研修を行っています。2012年度からは、女性従業員対象の『キャリアデザイン研修』に加えて、その上司を対象に、「女性従業員の自律的キャリア形成をサポートする」ことを目的とした『キャリア形成支援者研修』を行っています。

女性の活躍推進宣言

厚生労働省のポジティブ・アクション情報ポータルサイトに、女性の活躍推進について宣言しています。

- 女性の職域拡大
- 女性が活躍し続けるキャリアパス*などの検討
- 女性リーダーの育成

*キャリアパス:従業員が最終的に目指すべきゴールまでの道筋モデル

その実現のため具体的に

- ・女性が能力を発揮し難い原因を取り除く工夫と職場・職域の拡大
- ・適性に応じた能力開発を積極的に行い続ける環境整備
- ・適性に応じた複線的キャリアパス、評価・報酬制度の導入検討
- ・女性リーダー候補者への社内研修の実施、積極的な社外研修への参加
- ・業務や研修を通じて、女性リーダーとしてのマインド醸成に取り組みます。

障がい者雇用と活用

障がい者雇用については、企業の社会的責任として、法定雇用率(2.0%)を超えて雇用してきました。今後も雇用拡大と活用を進めていきます。

ワーク・ライフ・バランスの推進

ノー残業強化デイ職場パトロールの実施

従業員の心身の健康を保持するため、毎週水曜日と金曜日を全従業員残業ゼロの日と決め、職場パトロールを実施しています。

管理職者が18時~18時半に各職場を巡回し、帰宅を促しています。

新入社員の採用

企業の安定的な成長・発展に向け、新入社員の採用を行っています。本年は『広い視野を持ち、好奇心とチャレンジ精神、行動力を備え、当社のさらなる成長の方向性を示した「VISION-2020」を強力に推進し、その達成に大きく貢献できる人材』の採用を行いました。

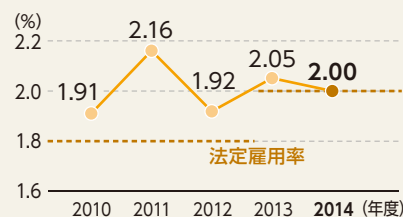


キャリアデザイン研修



キャリア形成支援者研修

障がい者雇用率



入社式風景

従業員とともに(2)

遺児育英年金制度

遺児育英年金制度は、従業員が在職中に死亡(または、高度の障がいとなり)退職した場合に、遺児(子供)に対して奨学資金を援助する制度です。この制度は、従業員が安心して働くため、労働組合と共同で行っている福利厚生施策で、子供が18歳(高校卒業)になるまで援助するものです。

従業員満足度調査

従業員のモチベーションを、会社の生産性や業績の向上につなげることを目的に、毎年「従業員満足度調査」を実施しています。今年度の総合満足度は、3.55点(5点満点)となり、4年連続して上昇しています。

調査結果は社内のポータルサイトに公開しています。

労働安全衛生について

基本理念

当グループでは、安全衛生の確保は、企業の社会的責任であることの認識を高め、働く一人一人ひとり、けがや病気に「させない」「起こさせない」という強い信念と愛情のもと、職場の危険源低減活動を進めています。また、働く源である元気なからだところの健康づくりにも、積極的に取り組んでいます。

安全活動

職場の危険源低減活動として「リスクアセスメント」、「5S活動」、「ヒヤリハット運動」や「労使安全パトロール」などを展開し、危険要因の排除に取り組んでいます。また、安全に強い人づくり推進活動として「危険予知訓練」、「各種安全衛生教育」などを実施し、安全意識の向上と、人材育成を図っています。特に近年は不安全行動による労働災害が多くなっているため、危険を危険として気づく感受性を鋭くする訓練と作業行動の要所で「指差し呼称」による安全確認の徹底運動を展開し、労働災害防止に努めています。

健康活動

職場における健康診断は、従業員の健康状況を把握するための基本となる対策であり、疾病の早期発見に重要な意義があります。健康診断結果をもとに、再受診の勧奨や、保健指導などのフォローを行っています。特に近年は、メタボリックシンドロームやその予備軍の従業員が増加しているため、保健指導による改善意識の高揚に努めています。

また、作業環境チェックを行い、従業員の健康障害を防ぐための適切な措置を講じています。

その他、長時間労働による健康障害の防止のために、毎月、前月分の長時間労働者を把握し、時間外労働時間に応じて、産業医による面接指導を実施しています。

従業員教育

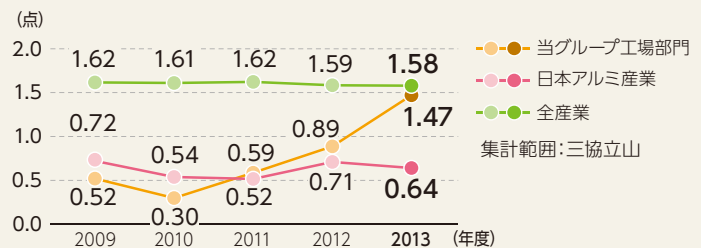
新人の早期戦力化を目的とした教育を、入社から3年間、期待する成長段階に合わせて計画的に行っています。

また、昇格者や課長・部長などの役職者に対して、職務遂行やマネジメントに関するスキルの習得と意欲の高揚を目的に、「階層別教育」や「役職者教育」を実施しています。さらに、次代の経営幹部や将来のマネジャーを創出するための「早期マネジメント教育」も行っており、当社の成長・発展を担う人材の育成にも力を入れています。

自己啓発支援

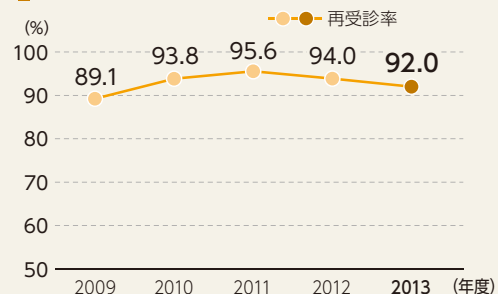
通信教育講座の受講奨励や社内e-ラーニングなどの自学手段の提供、公的免許・資格取得に対する報奨金支給など、従業員の自己啓発やキャリア形成をサポートしています。

労働災害度率



$$\text{労働災害度率} = \frac{\text{休業災害件数} \times 100\text{万時間}}{\text{延べ労働時間}}$$

健康診断の再受診率



安全衛生意識の高揚を目的に、毎年グループ全社から標語を募集し、優秀作品を表彰しています。今年は3,626件の応募がありました。

『元気な体 明るい笑顔 あなたが主役のいきいき職場』

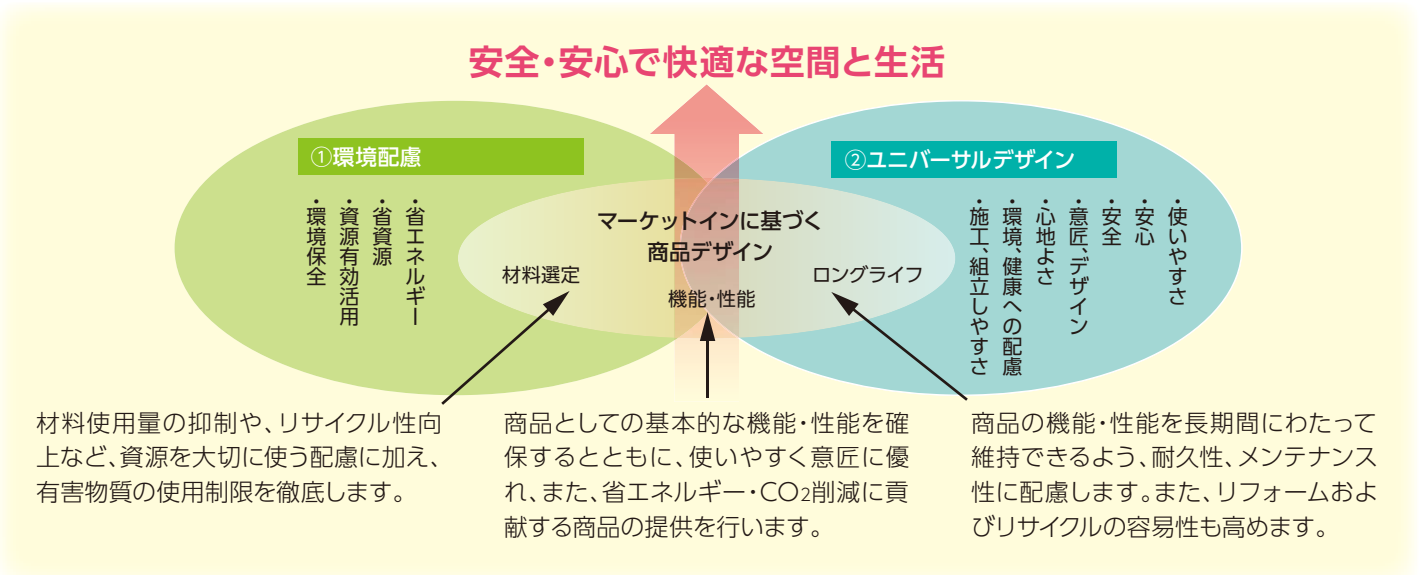
2013年度安全衛生標語入選作品(健康管理部門)

商品開発の基本姿勢

三協立山は、商品・サービスの購買者のニーズを優先し、マーケットインをベースとした全体最適システムから生活視点で商品開発を行い、お客様の期待にお応えします。

商品開発理念

安全・安心で快適な空間と生活に寄与するために、全ての新規開発商品において、①環境配慮と②ユニバーサルデザイン(以下UD)を基本に、「材料選定」、「機能・性能」、「ロングライフ」の三つの要素を使う人の立場に配慮して盛り込み、お客様へご提案しています。



環境配慮の商品づくりについて

環境配慮設計指針による商品開発

当社では、「環境配慮設計指針」を基本として商品開発を行っています。この中では、「省エネルギー」「省資源」「資源有効活用」「環境保全」の4つのコンセプトに基づき、材料選定、生産、流通、施工、使用から解体・廃棄までのライフサイクルでの環境負荷低減に努めています。

●4つのコンセプト

省エネルギー

- ①断熱
- ②遮熱
- ③省電力
- ④自然エネルギー利用

省資源

- ①リデュース
- ②長寿命
- ③メンテナンス性

資源有効活用

- ①リユース
- ②リサイクル

環境保全

- ①有害物質抑制
- ②温室効果ガス

環境配慮商品

商品開発時には、環境配慮設計指針に基づいた「環境配慮設計チェックリスト」を用いて、全ての開発商品について、環境への影響を評価しています。

従来同等商品より環境への負荷が少なくなるよう目標を定め、総合点数が目標を上回った商品を『環境配慮商品』と定めています。

その結果、三協アルミの2013年度の環境配慮商品売上比率は、82%になりました。

また、商品カタログには、環境配慮商品であることを示すマークを付けています。

●環境配慮商品マーク

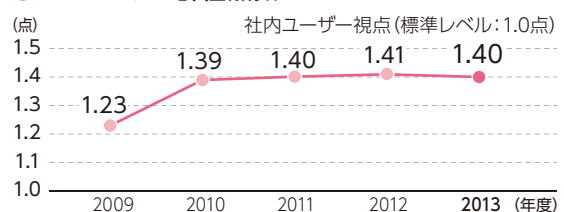


ユニバーサルデザインの取り組み

UDユーザー評価会

UDユーザー評価会とは、開発商品の試作確認時にユーザー視点での商品評価を行うものです。ユーザー側の声を商品開発へフィードバックすることで、書類審査や開発関係者による検討だけでは気が付かない問題点を掘り起こします。

●UDユーザー評価点数



環境・UDに配慮した商品開発(1)

ガーデンテラス「スマーレ」「サイドクローズタイプ」

”ルーバー引戸”で自然風を効率よく採り込む

ガーデンテラス「スマーレ」に、自然の風を効果的に採り入れることができる業界初の新機能窓を採用した「サイドクローズタイプ」を設定し、快適な空間づくりを提案するバリエーションを拡充しました。



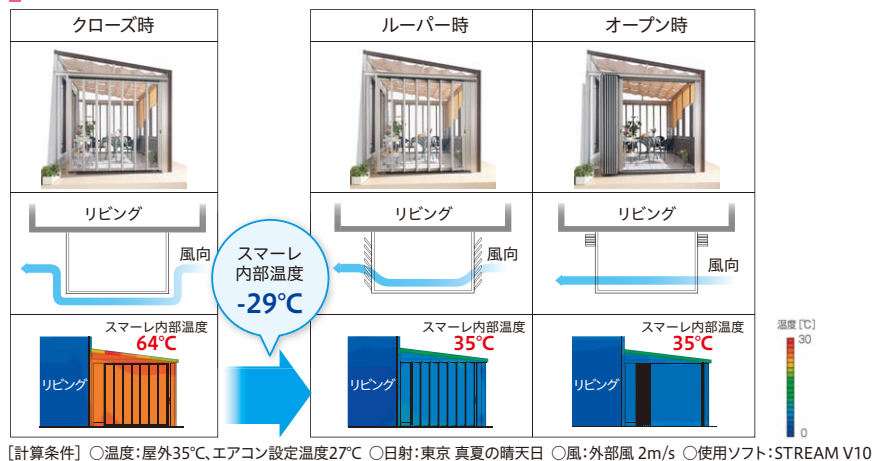
商品特徴

新機能窓“ルーバー引戸”

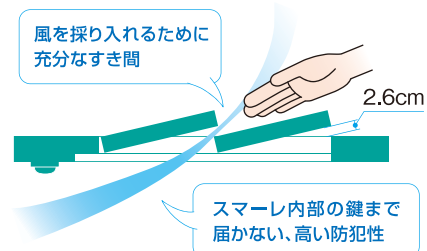
全開・全閉だけでなく、施錠したままルーバー状態にして風を採り込むことが可能。夏は涼しく冬は暖かく、テラス内の快適環境づくりをサポートします。

施錠したまま自然の風を採り入れることができる、ルーバー引戸

温度変化シミュレーション



ルーバー状態の場合、扉と扉の隙間は26mmと小さく、外から手を入れて解錠できない構造です。



防犯性に配慮しながら風を採り込みます。

Voice

木目調の新デザインで好評のガーデンテラス「スマーレ」に、ガーデンルームとして使えるよう、四方をガラスで囲んだ商品を追加しました。

新機構のルーバー引戸は、全開にすればオープンテラスとしても使える優れたものです。ルーバー状態とフルオープンを実現するため、当初、扉がなかなかスムーズに動かず、この問題を解決できたことが商品化につながりました。また、ルーバー開閉時の安全対策も徹底しています。

機能的なガーデンテラスで、人と人とのふれあいの場、家族のだんらんの場を広げます。

三協アルミ社 商品開発部 商品開発四課 面谷 智久



環境・UDに配慮した商品開発(2)

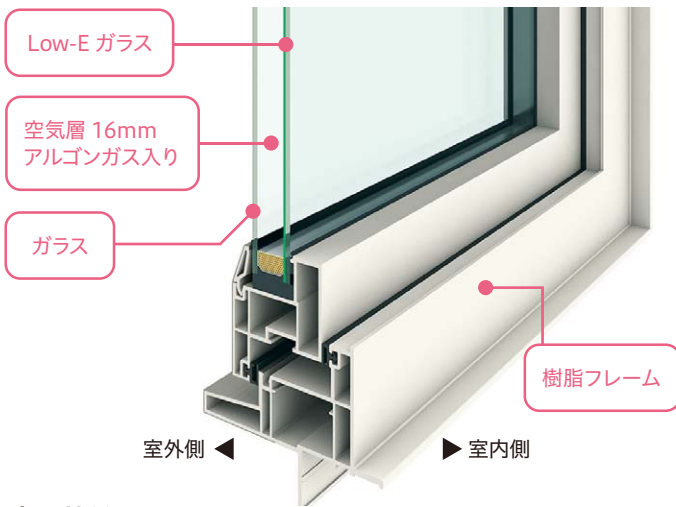
新樹脂窓「スマージュ」「トリプルスマージュ」

光と熱へのこだわり。 新しい樹脂窓のカタチ。

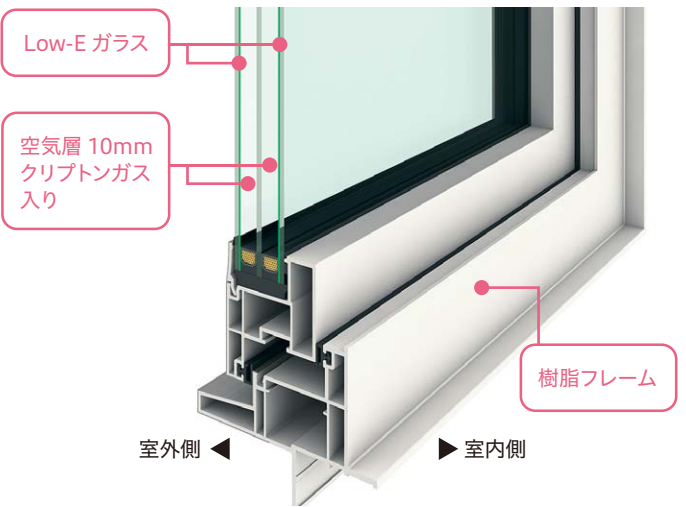
省エネやエコロジーへの関心の高まりを背景として、高い断熱性能を持つ窓へのニーズがますます高まっています。「スマージュ」は、アルミに対して熱伝導率が1/1000の樹脂に加え、ガラス間の空気層に熱を伝えにくいガスの封入とLow-Eガラスの採用で、業界トップクラスの断熱性能を実現しました。



■ 複層ガラスタイプの「スマージュ」



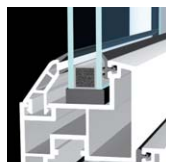
■ トリプルガラスタイプの「トリプルスマージュ」



商品特徴

- 1 断熱効果を最大限に発揮するガラス仕様 — 快適性の向上**
「スマージュ」の複層ガラスは、室内側にLow-Eガラスを使用し、16mmの空気層にアルゴンガスを封入しています。さらに、ガラスより熱損失の大きいフレームをスリム化することにより、高い断熱性能を確保しました。「トリプルスマージュ」のトリプルガラスは、室内外側にLow-Eガラスを使用し、10mmの空気層にクリプトンガスを封入しています。クリプトンガスはアルゴンガスより比重が重いので、ガラス間に封入すると対流が起りにくくなり断熱効果を高めます。
- 2 スリムなフォルム — 意匠性と採光性の向上**
ガラスとフレームを接着させる“ガラス接着技術”の採用により、フレームをスリム化し、スタイリッシュなフォルムを実現しました。またガラス面積が大きくなり、採光性が向上しました。

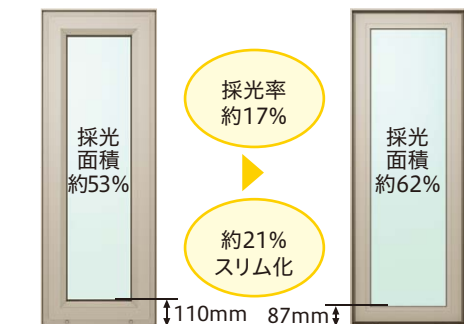
従来品(アルペンPL)



スマージュ



ガラスと
枠を接着



たてすべり出し窓

Voice

省エネ・節電が当たり前になった今、高断熱の樹脂サッシは全国的に関心が高くなっています。「スマージュ」は、断熱性能には徹底的にこだわり、少しでも性能向上するよう努めています。

サッシは、建物とともに長い間性能を発揮します。家一棟全体に、断熱性に優れたサッシを使用すれば、将来にわたり快適な空間が保てますので、自信を持っておすすめします。

また、ガラス接着によりフレームをスリム化し、ハンドルを含めてシャープなデザインとしました。ナチュラル感のある外観木調色を新たに追加し、建物にあわせたカラーコーディネートも楽しめ、すっきりとした外観に仕上がります。



三協アルミ社 商品開発部
樹脂サッシ開発課
中川 小百合

環境・UDに配慮した商品開発(3)

MTG-70シリーズ 高性能サッシ

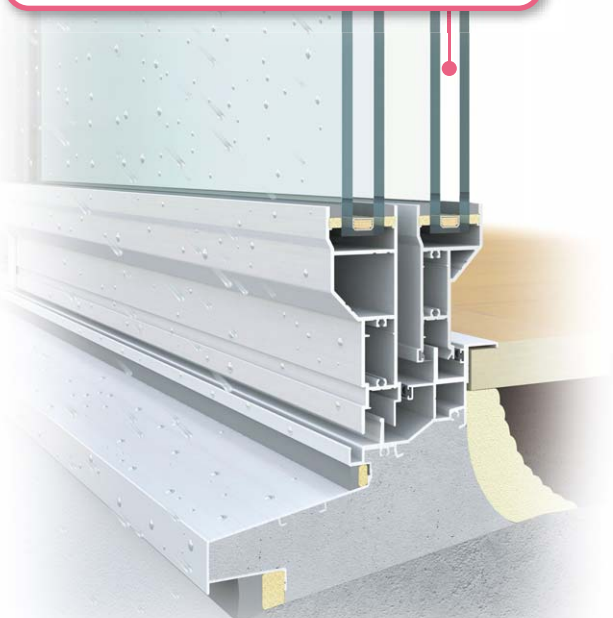
水密性能1500Paと断熱性H-2等級の両立を実現

ビル用サッシ「MTG-70高性能サッシ」は、水密性能1500Paと断熱性H-2等級を兼ね備え、さらに耐風圧性能4500Paまで対応します。

近年多発している想定外の豪雨や雨台風に対応するためには、これまで以上にハイスペックな水密性能が求められてきています。さらに、より高い省エネ効果や快適な居住環境へのニーズも高いことから、「MTG-70高性能サッシ」は、空気層12mm以上の複層ガラスを採用することで、高水密と高断熱の両立を実現させました。



空気層12mmの複層ガラスが可能



商品特徴

1500Paの高水密設計

JIS基準の最高等級W-5<500Pa>を超える高い水密性能により、安心・安全で快適な住空間を提供します。

断熱性H-2等級に適合

空気層12mm以上の複層ガラスを採用することで、断熱性H-2等級に適合します。

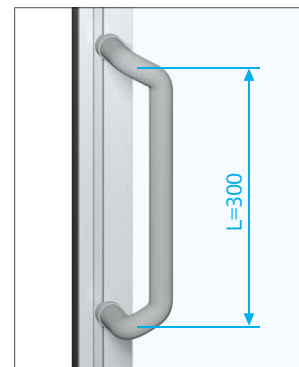
○開閉をさらに軽く扱いやすく

- ① 型材形状の改良と高潤滑処理を施したタイト材により、軽い始動力を実現
- ② てこの原理を応用し、標準仕様より軽く始動できるレバレッジ引手、開閉操作をサポートする大型把手などをオプションで用意



レバレッジ引手

(引手タイプのアシストハンドルです)



大型把手(樹脂製)

Voice

省エネ・節電の意識が高まる中、首都圏のマンションを中心に、高断熱のサッシが主流になってきています。これは、高い耐風圧・水密性能が必要な超高層マンションでも同様です。

一般に、高い性能を求めると、大きく大きな部材となりますが、MTG-70高性能サッシは、ベースのMTG-70と同一のスリムな意匠のまま性能を向上させています。見えない部品や加工に工夫を凝らし、性能試験も数多く実施し検証しています。

MTG-70高性能サッシは、サッシに求められる性能すべてがハイスペックなため、住む人に安心と快適な暮らしを提供します。



三協アルミ社 商品開発部 商品開発一課 石原 典継

環境・UDに配慮した商品開発(4)

新型キャッシュトレ「ラクトレー」

産学協同で開発した、 人間工学に基づくキャッシュトレ

“さらに使いやすく、さらに疲れにくい”

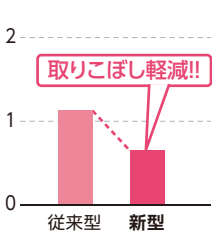
POSレジ作業における作業者の動きを、人間工学的に解析したキャッシュトレの形状を、富山大学と産学協同で研究開発しました。

さまざまな検証の結果、『取りこぼしの軽減』『作業負荷の軽減』『不快音の軽減』に効果があることが実証されました。

検証① 取りこぼし

トレイに置かれた硬貨を、一定のリズムでつかみ取る動作をくり返し、取りこぼしの発生頻度を検証しました。

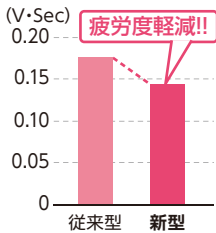
○腕の取りこぼし数



検証② 筋活動量

硬貨をつかみ取る動作時の筋活動量を計測し、レジ作業が身体におよぼす疲労度を検証しました。

○積筋筋電位[三角筋]



検証③ 不快音

素材の違いによって、硬貨がトレイに当たるときに発生する不快音が軽減できるかを検証しました。

○音圧レベルの測定 (計測室にて)

回数	500円玉	
	新型	従来型
1	82.5	88.3
2	83.2	87.2
3	83.8	85.5
4	86.4	86.9
5	82.1	85.4
平均	83.6	86.7
差異	3.1	

不快音を軽減!!



Voice

レジの人が頻りに使うキャッシュトレを、より使いやすいものとなるよう、さまざまな実験を何度も繰り返して開発しました。

使いやすさを徹底的に追求し、トレイの形状だけでなく、材質や色にもこだわっています。

曲線を多用した形状のため、金型成形がなかなかうまくいかず苦労しましたが、働く人に喜ばれる商品になりましたので、自信を持っておすすめできます。

タテヤマアドバンス社 商業施設開発部 商業施設開発一課 白崎 理恵/
商品企画部 商品企画課 羽岡 聖子



バッテリースタンドサイン「ADO-900N-BT系」

コンセントのない屋外に設置可能

充電式バッテリータイプのアルミスタンドサインです。

電源は脱着式のリチウムイオンバッテリーを採用し、充電する際はスタンドサイン本体からバッテリーのみ取り外し専用充電器を用いて充電します。(標準充電時間:約3時間30分)

LED照明との組み合わせで、長時間点灯が可能のため、安心してご使用いただけます。



「ADO-930N-BT」使用例

「ADO-940N-BT」使用例

※各点灯時間は新品バッテリーをフル充電した場合の時間です。

バッテリーは脱着式で、
簡単装着

不要バッテリーは当社で回収し、
リサイクル品として再利用

○バッテリー装着手順



Voice

バッテリースタンドサインは、4年ほど前より構想がありましたが商品のLED化により省エネが進み、ようやく商品化したものです。低消費電力のLEDとの組み合わせで、バッテリーをより小さく、充電時間をより短く、点灯時間をより長く、を実現しています。

この商品のこだわりは、バッテリーの着脱のしやすさです。バッテリーの軽量化だけでなく、スタンドサイン本体に簡単にセットできるような形状などを工夫し、誰でも無理なく作業ができるようにしました。

タテヤマアドバンス社 商品企画部 商品企画課 紺野 秀治



社会から評価を受けた商品



KIDS
DESIGN
AWARD
2013

第7回キッズデザイン賞『UBキーガル』/『「ナノイー」搭載内部額縁』

子ども視点の安心安全デザイン 一般部門

玄関ドア電気錠「UBキーガル」

「UBキーガル」は、リモコンキーをバックなどに入れて身につけていれば、ドア本体のタッチキー操作で簡単に施解錠できます。

荷物の多い時やお子さんを抱っこしたままでも、鍵を取り出さずにスムーズに出入りできます。



子どもの産み育て支援デザイン 個人・家庭部門

「ナノイー※」搭載内部額縁

「ナノイー」搭載内部額縁は、パナソニック株式会社エコソリューションズ社との共同開発商品です。

玄関ドア枠上部から「ナノイー」を発生させ、花粉や菌などのアレルギー物質を抑制します。また、脱臭機能もあわせ持ちます。



※「ナノイー」とは・・・水に包まれた微粒子イオンです。
※「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。



ドイツ「iFデザイン賞2014」「ARM-S@NAV」

自然換気システム「ARM-S@NAV」

ARM-S@NAVは、「風をつかむ」「風の道をつくる」「風を制御する」といった独自技術の組み合わせにより、自然の風を建物に取り込むとともに、「風力」「重力」を利用して効果的な換気を行うことができる自然換気システムです。

「iF(アイエフ)デザイン賞2014(iF design award 2014)」

1953年からドイツ・ハノーバー工業デザイン協会(iF- International Forum Design GmbH)が主催し、全世界の工業製品から優れたデザインに贈られる著名なデザイン賞です。「iF デザイン賞 2014」には、世界55カ国から4,615点の応募がありました。



木組みに求められる高い精度をアルミ材で実現

豪華寝台列車クルーズトレイン「ななつ星in九州」車両内装材

2013年10月15日より運行をスタートした「ななつ星in九州」のデザインは、水戸岡鋭治氏が手がけたもので、車両内外に施された木の風合いが特徴の豪華寝台列車です。車内の内装材においても、アルミ材を使用しつつ細部まで木の風合いにこだわった仕上がりが求められました。

具体的な取り組みとしては、

- ①突合せ接合部の隙間なしの実現
- ②難易度の高いアール形状の格天井の接合を3次元加工により実現

などがあり、アルミ材の表面に木材を薄くスライスしたシート(つき板)を貼ることで木の風合いを再現しただけでなく、より木製に近づけるため、ディテールにもこだわった仕上げを実現しました。



環境基本理念

三協立山グループでは、経営理念・行動指針に基づき、環境基本理念、環境方針などを展開し、環境問題については最重要課題として位置付け取り組んでいます。

環境スローガン

創ろう美しい地球を

環境基本理念

三協立山グループは、地球環境問題を最重要課題として認識し、全ての事業活動を通じ地域や地球の環境保全に取り組み、人と自然にやさしい豊かな社会づくりに貢献いたします。

環境方針

- ① 事業活動における環境負荷低減
- ② 環境配慮商品の充実・推進
- ③ 環境経営および環境リスクへの対応
- ④ 環境コミュニケーションの促進

事業活動における環境負荷低減

事業活動全般にわたって次の対策を行っています。

省エネルギー対策(地球温暖化対策)

廃棄物対策

省梱包の推進

化学物質のリスク低減

環境配慮商品の充実・推進

2009年12月より「環境配慮商品」を認定し、環境に配慮した商品の充実を図っています。グリーン調達の推進やライフサイクルアセスメント(LCA:Life Cycle Assessment)を用いた環境配慮設計を実施しています。

環境マネジメントの継続的推進

環境マネジメントシステム*を充実させ、グループ全体の環境保全に関する取り組みを継続的に推進しています。

※環境マネジメントシステム：企業が、その経営のなかで自主的に環境保全に関する取り組みを進めるにあたり、方針・活動内容などを設定してその達成に向けて取り組んでいくための体制・仕組み

特に重要な環境政策については、課題別部会を設置して取り組んでいます。

省エネルギー部会	エネルギー使用量・CO ₂ 排出量の削減
廃棄物部会	廃棄物排出量の削減
化学物質部会	有害化学物質使用量の削減
環境配慮設計部会	環境への負荷を低減した商品設計・開発の推進

主要指標一覧

[2013年度] 主要な環境パフォーマンス指標などの推移

項目	報告対象期間	2013年度			集計範囲	本報告の掲載頁
		2011年度	2012年度	2013年度		
総エネルギー投入量	(千GJ)	4,571	4,454	4,542	三協立山	P35
主要原料投入量	(千トン)	164	165	167	三協立山	P32
水資源投入量	(千トン)	10,480	10,650	10,504	三協立山	P32
温室効果ガス排出量	(千トン-CO ₂)	232	221	220	三協立山	P35
産業廃棄物排出量	(千トン)	30.4	30.3	30.7	三協立山	P37
産業廃棄物埋立量	(千トン)	1.2	1.0	1.2	三協立山	P37
PRTR対象物質取扱量	(トン)	787	718	532	三協立山、関連会社	P40
化学物質トルエンの排出量	(トン)	60	51	54	三協立山、関連会社	P40
化学物質キシレンの排出量	(トン)	80	67	69	三協立山、関連会社	P40
総資産	(百万円)	212,862	216,545	234,243	三協立山	P49
売上高	(百万円)	272,554	271,757	295,236	三協立山	P49

※温室効果ガス排出量：年度ごとの各電力会社の実排出係数にて算出(2011年度以降の排出係数は2010年度の値を使用)

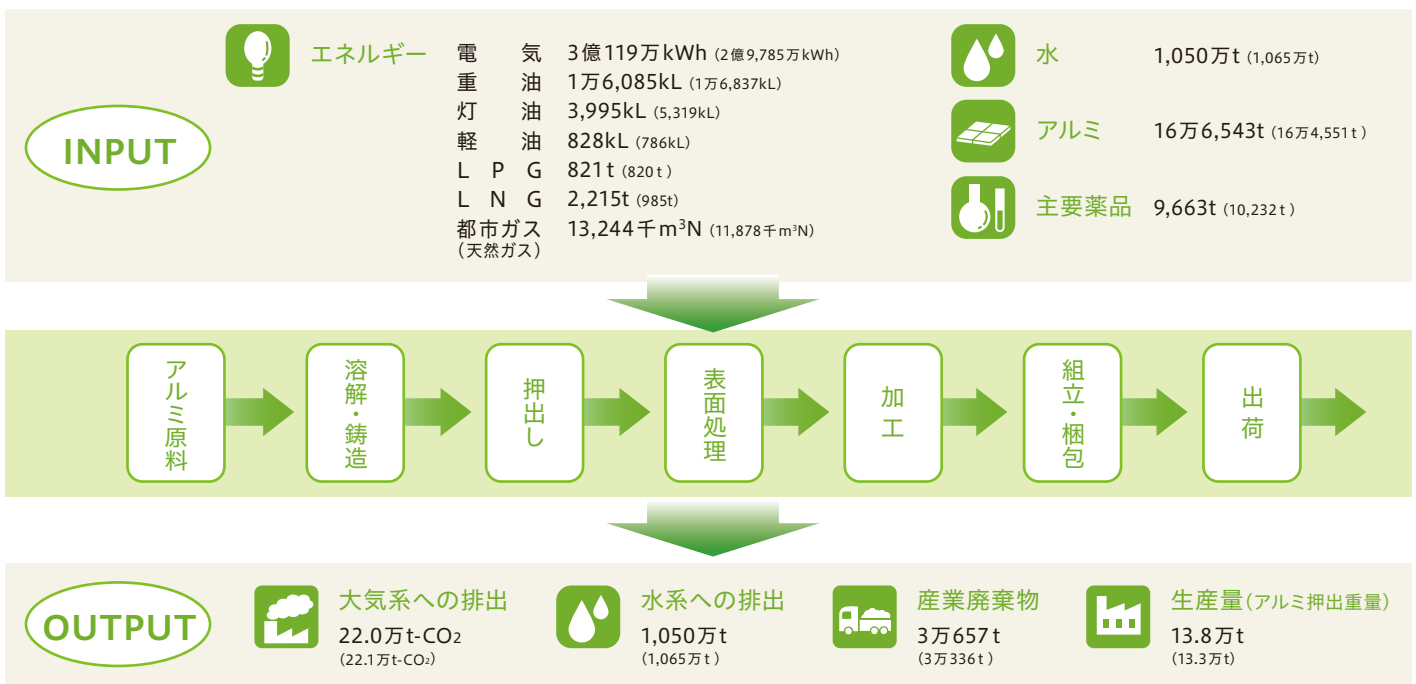
※環境報告ガイドライン2007年版準拠

※主要原料投入量、水資源投入量、PRTR対象物質取扱量、化学物質トルエンの排出量、化学物質キシレンの排出量の集計期間は4月1日～翌年3月31日

※総資産、売上高について、2011年度(2012年5月期)までは三協・立山ホールディングス株式会社の実績

環境とのかかわり

当グループでは、主にリサイクルが容易なアルミニウムを材料とし、エネルギーや水、化学物質を使用して商品づくりを行っています。その過程として、資源の消費、廃棄物やCO₂の発生という形で、環境に負荷を与えています。このような負荷を低減するためのさまざまな活動を通じて、地域や地球の環境保全に取り組んでいます。



※()内は2012年度実績

※集計範囲・・・三協立山

環境行動目標と実績

中期および2013年度の環境行動目標と実績は、下表のとおりです。

中期および2013年度の目標と2013年度の実績

環境方針	取り組み項目	中期環境行動目標 (2012年度～2014年度)	2013年度 目標	2013年度 実績	自己評価	掲載ページ
事業活動における環境負荷の低減	地球温暖化対策 (省エネルギー対策)	・エネルギー使用量を2011年度比2014年度生産量原単位 全体で3%削減	・2%削減	・2.3%削減		P35
		・CO ₂ 排出量を2011年度比2014年度生産量原単位 全体で3%削減	・2%削減	・6.6%削減		P35
		(長期目標) ・CO ₂ 排出量を1990年度比2020年度 総量で20%削減	・14.5%削減	・16.1%削減	—	P35
		・輸送段階におけるCO ₂ 排出量を2011年度比2014年度輸送量(トンキロ)原単位 全体で3%削減	・2%削減	・1.7%増加		P36
	廃棄物対策	・工場部門の産業廃棄物 各年度のリサイクル率97%以上	・97%以上	・97.3%(全工場トータル)		P37
		・工場部門の産業廃棄物排出量を2011年度比2014年度3%削減	・2%削減	・0.7%増加		P37
	省梱包の推進	・梱包副資材の使用量 各年度2011年度より削減	・削減	・2.9%削減		P37
化学物質対策	・PRTR対象物質の使用量を2011年度比2014年度3%削減	・2%削減	・32%削減		P40	
環境配慮商品の充実・推進	グリーン調達	・事務用品のエコ商品購入率2014年度までに80%以上に向上 ・グリーン調達ガイドラインの継続運用	・79%以上 ・グリーン調達ガイドラインの継続運用	・72%		P41
	環境配慮商品の開発推進	・環境・エコ分野商品の現領域強化と新領域への展開	・環境・エコ分野商品の現領域強化と新領域への展開	・断熱3商品、自然採風4商品開発 ・環境配慮商品売上比率82%		P25～29
	LCAを適用した環境配慮設計の推進 (LCA:ライフサイクルアセスメント)	・全ての新規自社開発商品への環境配慮設計の実施	・全ての新規自社開発商品への環境配慮設計の実施	・新規開発商品は「環境配慮設計チェックリスト」で100%評価		P25
環境リスクへの対応	環境管理、監視体制の強化	・継続的な環境パトロールの実施 ・法令違反の発生件数0件、重大環境事故の発生件数0件	・継続的な環境パトロールの実施 ・法令違反の発生件数0件、重大環境事故の発生件数0件	・全ての工場、関連会社の環境パトロール実施 ・法令違反の発生件数0件、重大環境事故の発生件数0件		P34
	産業廃棄物管理の徹底	・継続的な処理業者への視察 ・廃棄物処理法違反の発生件数0件	・継続的な処理業者への視察 ・廃棄物処理法違反の発生件数0件	・視察の実施(4件) ・廃棄物処理法違反の発生件数0件		P34
環境コミュニケーションの促進	情報開示 (CSR報告書の発行)	・年1回の発行 ホームページで公開	・年1回の発行 ホームページで公開	・「CSR報告書2013」の発行 ホームページで公開		—
	生物多様性の保全	・生物多様性ガイドラインの策定 ・森づくり活動の推進	・生物多様性ガイドラインの策定 ・森づくり活動の推進	・ガイドライン策定 ・森づくり活動実施		P3～4
	地域社会との共生、関係団体への参画	・関係諸団体への継続的な参画 ・環境保全活動への参画	・関係諸団体への継続的な参画 ・環境保全活動への参画	・関係諸団体への参加		P41
	環境教育	・環境講習会・セミナーの開催推進 ・環境家計簿の参加推進	・環境講習会・セミナーの開催推進 ・環境家計簿の参加推進	・環境家計簿の参加推進		P41

目標達成 目標未達成

環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムは、構築したシステムを継続的にレベルアップしていくことが重要です。このことが社会的責任を果たすことであると考え、さらに環境マネジメントシステムを充実させていきます。

ISO14001の認証取得

三協立山では、2008年度までに全ての工場および生産系関連会社において、ISO14001を認証取得しました。

ISO14001の取得は、環境マネジメントシステム構築の基本となるため、維持更新を図り、継続的にレベルアップに努めていきます。

環境パトロールの実施

当グループでは、環境事故の未然防止、環境保全意識の向上および法令遵守を目的に、毎年関連会社も含めて全工場の環境パトロールを実施しています。契約書類、届出書類などが法令に準拠しているか、環境測定データが基準値を外れていないか、タンク類が液漏れを起こす危険性がないかなどについて書類チェックおよび現場確認を行っています。

2013年度は、法令違反はありませんでしたが、廃棄物置場や危険物貯蔵所の看板において分かりづらいものがあったため、改善しています。

今後も環境パトロールを継続して実施し、環境事故の未然防止に努めていきます。

産業廃棄物処理業者の視察

当グループでは、グループ内から排出された産業廃棄物が法令に準拠して適正に処理されているか確認するため、毎年計画的に産業廃棄物処理業者の視察を実施しています。

2013年度は、4業者を視察しましたが、いずれの業者も適正に処理していることが確認できました。

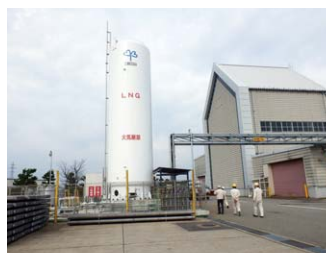
今後も継続的に視察を実施し、産業廃棄物の適正処理の確認に努めていきます。

緊急事態への対応(新湊工場の例)

新湊工場では、毎年地震などを想定した緊急事態対応の訓練を実施しています。

工場内では、アルミ型材など表面処理のため、苛性ソーダ・硫酸などの劇物を使用していますので、今回はタンクから苛性ソーダの漏洩を想定した訓練を実施しました。

今後も毎年、訓練を繰返し行うことで有事の際に各人がどういふ行動を取るべきかを再確認していきます。



石川工場



奈呉工場



視察風景



劇物流出防止訓練



報告風景

地球温暖化対策(省エネルギー対策)(1)

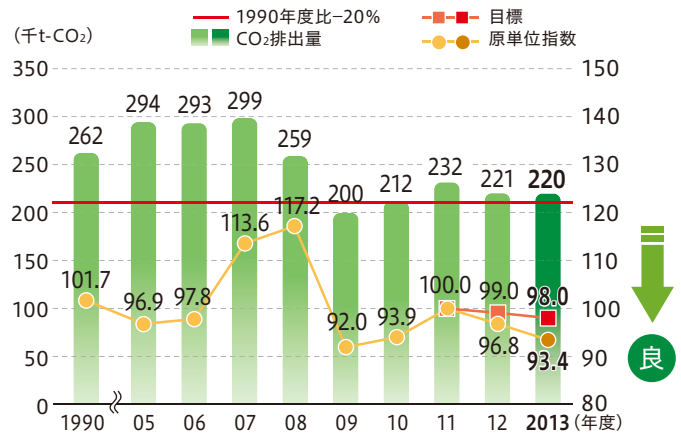
三協立山グループでは、地球環境問題を人類共通の最重要課題として認識しており、省エネ活動をはじめとする地球温暖化対策に継続的に取り組み、地道な活動を進めています。

CO₂排出量とエネルギー使用量

2013年度のCO₂排出量の総量は、2011年度比で5.0% (約12千t-CO₂)の削減、1990年度比では16.1% (約42千t-CO₂)の削減となりました。これは、主に重油・灯油からLNGへの燃料転換と日頃からの地道な省エネ活動などを実施したことによります。(エネルギー使用量は2011年度比0.6%削減)

生産量原単位について、CO₂排出量原単位は2011年度比で6.6%、エネルギー使用量原単位は2.3%減少となりました。

CO₂排出量と生産量原単位の推移

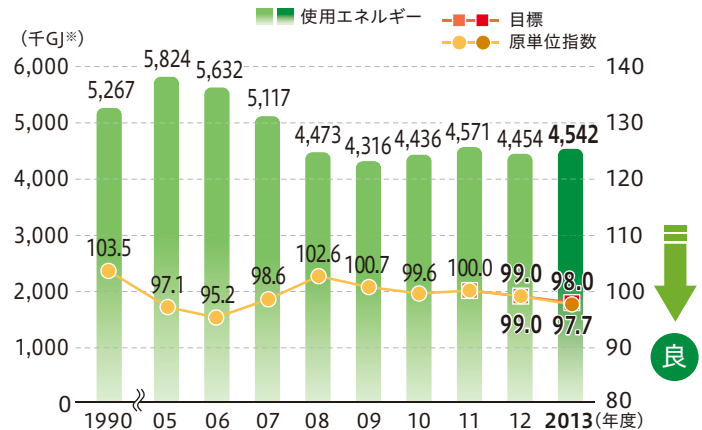


※算出根拠: 地球温暖化対策の推進に関する法律に定められる排出係数による。
(環境省平成22年3月改正)

※2011年度以降の電力のCO₂換算係数は、2010年度の値を使用しています。

※2009年度以前は、4月～3月のデータです。

エネルギー使用量と生産量原単位の推移

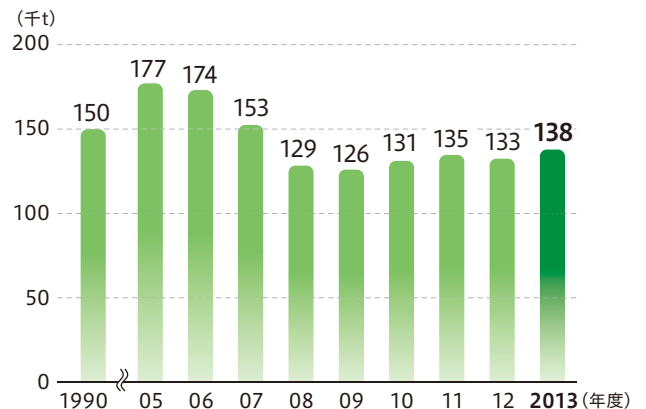


※算出根拠 電力: エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則
熱使用: 資源エネルギー庁「エネルギー源別発熱量表」

※GJ: ギガジュール

※2009年度以前は、4月～3月のデータです。

生産量の推移



※2009年度以前は、4月～3月のデータです。

地球温暖化対策(省エネルギー対策)(2)

輸送部門でのCO₂排出量

2013年度は、輸送量(重量×距離)が増加したため、CO₂排出量は、2011年度比2.3%増(384t-CO₂増加)となりました。CO₂排出量の輸送量原単位は、積載効率が低い貸切便が増えたため、2011年度比1.7%増加となりました。

省エネルギー活動事例

燃料転換に伴うオイルヒーター設定温度の見直し

奈呉工場では、従来C重油を使用していましたが、再生油に転換しました。C重油は粘性が高く、ポンプによる送油やバーナーでの噴霧を効率良く行うために、ヒーターにより温度を上げて使用しています。再生油はC重油より粘度が低く、オイルヒーター設定温度を90°Cから70°Cに下げることができ省エネルギーにつながりました。

営業車のガソリン使用量削減

全社有車を対象とした「エコドライブコンテスト」を実施し、燃費向上を競い合いました。また、低燃費車の導入も進めた結果、2013年度のガソリン使用量は2011年度比9.5%(134kl)削減しました。

節電活動

2013年夏、当社は電力の使用抑制のため、以下の節電活動に取り組みました。

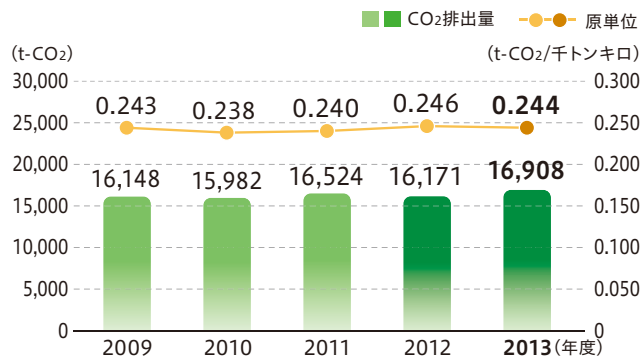
<生産拠点における節電対応策>

- ◇工場の一部押出・皮膜ライン等における勤務体制を見直し、休業日を現状の土曜・日曜から日曜・月曜にシフト実施(7月下旬～9月上旬)
- ◇工場内照明、空調及びコンプレッサー等関連設備の節電推進

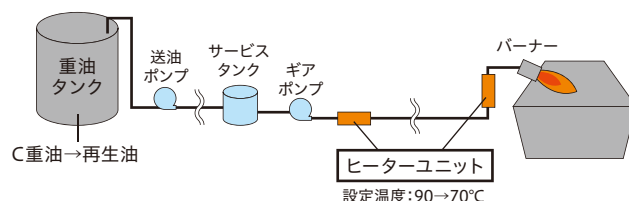
<本社・各営業拠点における節電対応策>

- ◇全社クールビズ活動期間を例年より拡大実施(5月中旬～10月末)
- ◇エアコン使用時の室内温度を29°Cに設定
- ◇照明のLED化推進および不使用エリアの消灯を徹底
- ◇自動販売機の運転時間を短縮
- ◇パソコンのモニター輝度を約60%ダウン
- ◇離席時のパソコン省電力モード活用推進と帰宅時のパソコン・プリンターの電源OFFの徹底

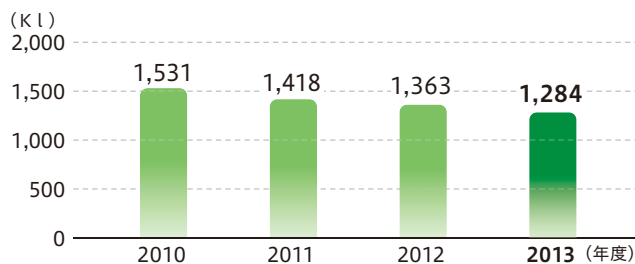
輸送部門のCO₂排出量と原単位



◆オイルフロー



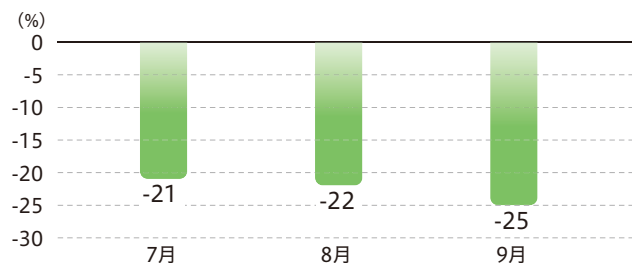
営業車のガソリン使用量



◆全支店の節電活動実績(2013年7～9月)

- ・電力使用量(kWh)：
- 2010年度比 約23%削減(震災前と比較)

電力使用量(2010年度比)



廃棄物と省梱包(1)

廃棄物対策

三協立山グループでは生産工程から定常的に発生する産業廃棄物の排出量抑制とリサイクル率向上に取り組んでいます。

産業廃棄物排出実績

2013年度の産業廃棄物排出量は、2011年度比0.7%増加(0.2千t増)となりました。これは産業廃棄物を多量に排出する皮膜工程での生産量が増加したことによるものです。リサイクル率については、鑄造部門で埋立量が減ったことにより、全体の埋立量は2011年度比5.7%削減(70t減)し、リサイクル率は97.3%でした。

ゼロエミッション達成状況

2013年度は12工場中10工場でゼロエミッション(リサイクル率97%以上)を達成しました。

オフィス部門での取り組み

三協立山の本社では、一般廃棄物削減に取り組んでいます。2013年度は古紙分別の徹底により、2011年度比13.7%削減(13t減)しました。

省梱包への取り組み

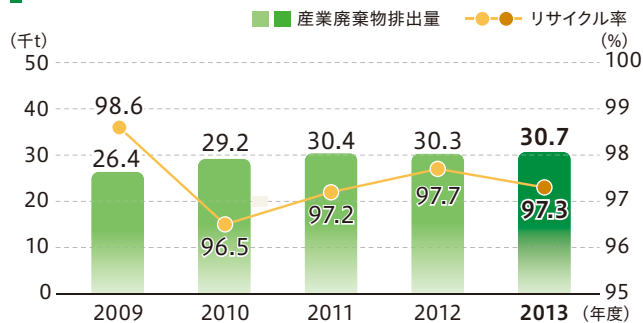
省梱包への取り組みとして、梱包資材の削減、梱包レスの推進、材質転換・統一化の3つの柱を掲げ、活動しています。

活動事例：樹脂サッシの梱包改善

樹脂サッシの梱包材として、発泡スチロールとダンボールから積層ダンボールに変更しました。

これにより年間約6トンの廃棄物削減となりました。

産業廃棄物排出量とリサイクル率の推移



※リサイクル率は有価物を含めて計算しています。

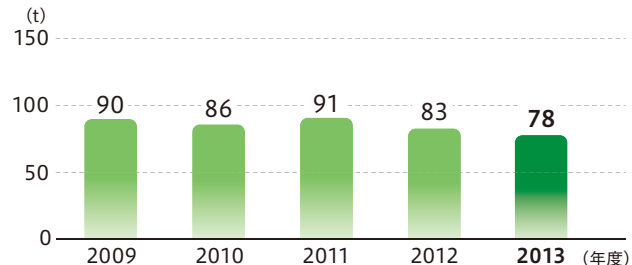
※2009年度以前は、4月～3月のデータです。

産業廃棄物埋立量の推移



※2009年度以前は、4月～3月のデータです。

一般廃棄物排出量の推移



※2009年度以前は、4月～3月のデータです。



改善前



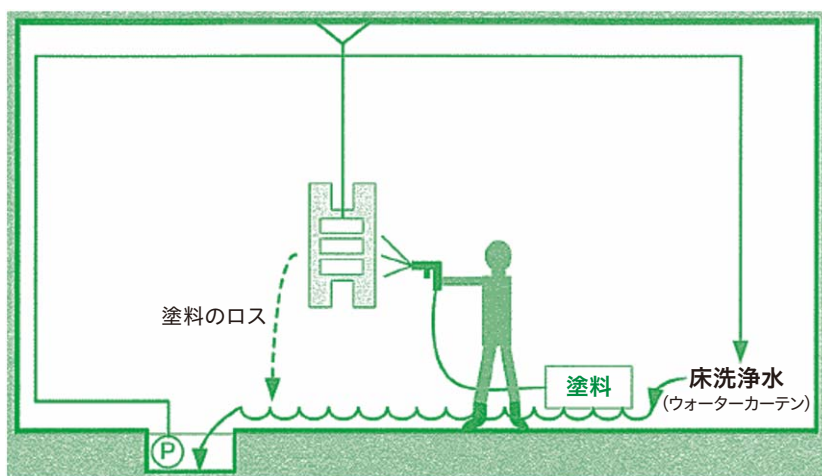
改善後

廃棄物と省梱包(2)

汚泥処理の取り組み(バイオ液注入による発生汚泥の減量化)

新湊工場

対象品目	有機性汚泥
取り組みの概要	<p>①発生抑制</p> <p>アルミ製品の吹き付け塗装工程は静電塗装であるが、製品に付かずにロスになる塗料があり、それを塗装ブースの床に流すこと(ウォーターカーテン)で回収している。</p> <p>この回収した汚泥に酵素バイオ液を注入し分解させることで、汚泥の発生を抑制している。副次的な効果として、これまで苦慮していた悪臭も軽減することができ、作業環境の改善にもつながっている。</p> <p>②再生利用</p> <p>その他、年に2回塗装ブースの清掃を行い、排出した汚泥をセメント原料などにリサイクルする処理をしている。</p>
定量的な成果	塗装ブースの廃水ピットから排出される汚泥の排出量が半減できた。
定性的な成果	悪臭が軽減し、また汚泥が固くならないので清掃が容易になり、作業環境も改善された。



TOPICS

射水工場にメダカが生息

当社射水工場敷地内には、メダカ(在来種のキタメダカ)が生息しています。

このメダカは飼っているものではなく、もともと工場周辺の田園地帯に生息していたメダカが、工場敷地内の排水路に入り込み住み着いたものです。

工場では常に排水の水質管理を徹底していますが、敷地内に自然の姿が残されていたことに驚くとともに、これからもきれいな水にすることで、工場周辺の環境を守ろうとの想いを新たにしました。

2014年5月に地元テレビ局と新聞社から取材を受け、富山県内の自然環境を地域の人と探索する番組で紹介されました。

●メダカは、絶滅危惧種Ⅱ類に指定されています。



工場に生息するメダカ



取材の様子

水資源対策／法規制遵守

三協立山グループでは、環境に関する法規制の遵守を基本として、事業活動を進めています。事業活動に係わる法律や各地域における協定などの遵守はもちろんのこと、より厳しい自主基準を設けて管理しています。

水資源対策

水資源対策として工業用水、地下水などの使用量削減に取り組んでいます。

2013年度の水資源使用量は、前年度比1.4%減少(14.6万t減)となりました。

PCB管理

当グループでは、PCBを含む電気工作物、安定器について廃棄物処理法の基準に沿って適正に処理、保管および管理をしています。

高濃度PCB廃棄物の電気工作物については、今までに117台を適正に処理しました。残りの高濃度PCB廃棄物は、2014年度中に処理する予定です。安定器・ウエスについては、全数奈良物流センターに集めました。これも2014年度中に処理する予定です。

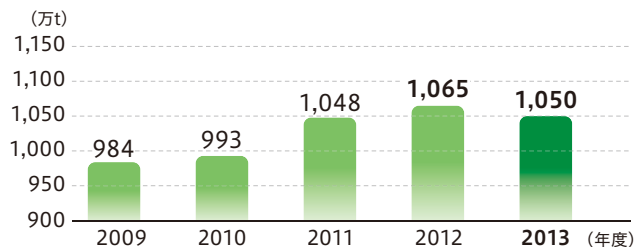
PCB管理対象機器台数一覧 (2014年3月31日現在)

単位:台

拠点名	高濃度PCB廃棄物		微量PCB 混入廃棄物 台数 (分析サンプル除く)	微量PCB 混入使用中 電気工作物 台数	微量PCB 混入の可能性 がある 電気工作物台数
	電気工作物 台数	安定器台数			
新湊	0	0	1	7	21
佐加野	0	0	0	0	0
福光	0	0	8	0	2
福岡	0	0	11	24	0
氷見	0	0	0	1	0
福野	0	0	4	3	2
福岡西	0	0	0	1	0
射水	0	0	3	11	1
高岡	0	0	3	0	0
高岡西	0	0	13	0	0
石川	0	0	0	0	0
新湊東	0	0	0	0	0
奈良	0	0	1	0	0
横浜	0	0	1	0	0
三協立山本社	0	0	11	0	0
三協立山本社別館	0	0	0	0	6
長慶寺(本社工場)	0	0	6	0	0
奈良物流センター	5	956	4	0	0
協立アルミ	0	0	12	1	0
三協化成	0	0	1	0	0
三協工機	0	0	0	0	0
サンクリエイト	0	0	0	0	0
三精工業	0	0	0	0	12
STメタルズ	0	0	0	0	0
サンヨー	0	0	4	0	0
合計	5	956	83	48	44

※上記集計表には、使用中の蛍光灯安定器で、PCB含有の有無が未確認のものについては含まれていません。

水資源使用量の推移



※データ集計期間は、4月～3月です。



PCB含有物の保管(奈良物流センター)



日本環境安全事業(株)へのPCB含有工作物搬出作業

化学物質対策

三協立山グループでは、PRTR※法対象物質の管理および使用量の削減に努めています。

※PRTR(Pollutant Release and Transfer Register：環境汚染物質排出・移動登録)

化学物質管理

関連会社も含めた2013年度のPRTR法に基づく報告対象物質の取扱量の合計は、531.7tです。このうち、大気、水域への排出量は、取扱量の39%(209.2t)に相当し、その内の多く(186.0t)が大気に排出されています。(公共水域への排出量は23.2t)

大気排出量が多い物質は、塗装工程の溶剤であるトルエン、キシレン、エチルベンゼンの3物質で、大気排出量の84%(155.5t)を占めています。

以下にPRTR届出義務対象化学物質の排出量、移動量などを示します。

PRTR届出義務対象物質(関連会社含む)

集計期間：2013年4月～2014年3月

集計範囲：15事業所(三協アルミ社(7)、三協マテリアル社(3)、タテヤマアドバンス社、協立アルミ、三協化成、STメタルズ、三精工業)

(単位:t/年 ただし、ダイオキシン類はmg-TEQ)

番号	化学物質名	主な用途	取扱量	排出量			移動量		除去処理量	消費量
				大気	水域	土壌	リサイクル	廃棄物		
31	アンチモンおよびその化合物	難燃剤	3.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	3.1
53	エチルベンゼン	製品塗装、車輛燃料	37.9	33.1	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0
80	キシレン	製品塗装、車輛燃料、暖房燃料	80.0	68.5	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	6.8
87	クロムおよび3価クロム化合物	表面処理/電気クロムメッキ	25.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	25.3
186	ジクロロメタン	ラッピング接着	14.6	14.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
243	ダイオキシン類	—	—	79.0	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
277	トリエチルアミン	製品塗装	8.2	8.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	製品塗装、車輛燃料	12.2	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.5
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	製品塗装	2.5	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300	トルエン	製品塗装、車輛燃料	75.8	53.9	0.0	0.0	21.9	0.0	0.0	0.0
305	鉛化合物	廃プラに含有、アルミビレットの原料に配合	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
308	ニッケル	表面処理	10.6	0.0	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	9.9
309	ニッケル化合物	表面処理	28.1	0.0	2.6	0.0	0.5	1.1	0.0	23.9
355	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	シーリング剤、塩ビの可塑性剤	115.5	0.0	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	112.1
374	フッ化水素およびその水溶性塩	アルミビレット製造時の溶湯除滓剤	8.6	0.3	3.4	0.0	0.2	0.0	0.0	4.7
392	ノルマルヘキササン	シーリング剤付着ハケの洗浄	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
405	ホウ素およびその化合物	表面処理	19.9	0.0	17.1	0.0	0.3	0.5	0.0	2.0
412	マンガンおよびその化合物	アルミビレットの原料に配合	50.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	49.6
438	メチルナフタレン	各種炉燃料	13.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.1
448	メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	ラッピング接着、発泡ウレタン	23.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	23.3
合計			531.7	186.0	23.2	0.0	36.4	3.0	0.0	283.2

※上記集計表には、PRTR届出に必要な取扱量に達していない事業所の実績は含まれていません。

※リサイクル:対象物質を再生業者に引き渡した量

※除去処理量:除去処理を目的に対象物質が中和・分解・反応処理などにより他の物質に変化させた量

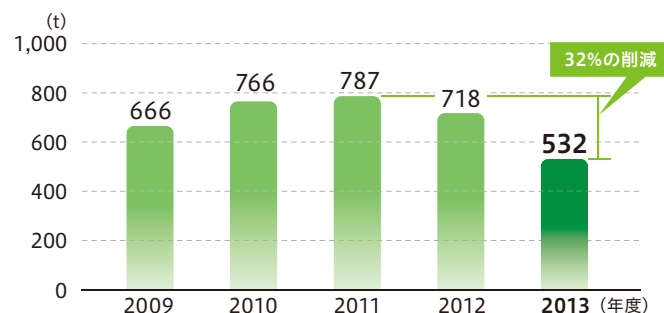
※消費量:対象物質が反応原料として消費された量、または製品に含有もしくは付着して場外に持ち出される量

化学物質使用量

当グループは、「化学物質ガイドライン」を制定し、運用しています。「化学物質ガイドライン」運用の目的は、商品に使用する部品・部材などに含有する環境負荷物質について、使用禁止レベル(禁止・削減・管理)を明確にし、環境品質を維持・向上することです。

2013年度の化学物質使用量は、PRTR対象物質において、2011年度比32%(255t)の削減となりました。主な理由は、ラッピング接着工程の溶剤であるジクロロメタンの代替化を進めたことと、燃料において重油の一部を天然ガスに転換したことによるものです。

PRTR該当物質使用量



環境コミュニケーション

三協立山グループは、環境保全活動や環境負荷低減活動を地域社会、行政、サプライチェーンなどのステークホルダーの方々と連携しながら推進しています。

とやま環境フェアへの出展

2013年10月に「とやま環境フェア2013」が富山市南総合公園 体育文化センターで開催されました。このフェアは、エコライフをテーマに富山県などの主催で毎年開催されており、当社も毎年出展して環境配慮商品の展示や環境への取り組みを紹介しています。



来場者への説明風景

環境家計簿の実施

当グループでは、より多くの社員が環境について理解を深め、主体的に取り組むことができるように、「環境家計簿」(家庭でのCO₂削減の取り組み:2006年度より取り組み開始)を継続して実施しています。

現在までに延べ765世帯が参加しています。前年比でCO₂排出量を大きく削減するなど優秀な実績をあげた参加者には景品を贈呈し、家庭でのCO₂削減活動の活性化を促進しています。

今後もこれらを継続して実施し、環境に対する意識向上に努めていきます。



環境家計簿2013

クールビズ、ウォームビズ運動の実施

当グループは、環境省が地球温暖化防止国民運動として提唱する「クールビズ運動」、「ウォームビズ運動」に賛同し、2005年度より継続して実施しています。

2013年度は、クールビズ運動期間を5月13日～10月31日、ウォームビズ期間を11月1日～3月31日として実施しました。

<冷暖房設定温度>

クールビズ運動期間:29℃

ウォームビズ運動期間:20℃

<服装>

クールビズ運動期間:ノーネクタイ、ノー上着

ウォームビズ運動期間:ネクタイ着用、寒い時は着る

COOLBIZ

冷房時の室温を
29℃に設定しております。

実施期間
2013年5月13日～10月31日

地球温暖化防止と省エネルギーのために、
みなさまのご協力をお願いいたします。

地球も・オフィスも・ここちよく
三協立山株式会社

クールビズ啓発ツール

WARMBIZ

暖房時の室温を
20℃に設定しております。

実施期間
2013年11月1日～2014年3月31日

地球温暖化防止と節電・省エネルギーのために、
みなさまのご協力をお願いいたします。

地球も・オフィスも・ここちよく
三協立山株式会社

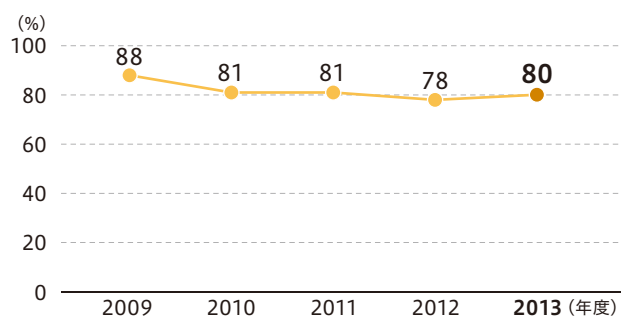
ウォームビズ啓発ツール

グリーン調達推進

当グループでは、環境への負荷が少ない資材などの優先調達(グリーン調達)を取引先様とともに推進するために、2001年7月の「グリーン調達ガイドライン」(2008年7月に第2版に改定)を制定しています。

また、事務用品、作業服、OA機器などについてもエコ商品の購入を促進しており、2013年度の事務用品のエコ商品購入率は72%、作業服は約80%で推移しています。

作業服のエコ商品購入実績



環境会計

三協立山では、環境省発行の環境会計ガイドラインに基づき、環境保全に係わる費用と効果を定量的に把握して、環境投資と効果を評価しています。

2013年度環境会計結果

環境保全コスト

単位:千円

環境保全コストの分類	コスト項目の主な内容	設備投資		費用	
		2012年度	2013年度	2012年度	2013年度
1. 事業エリア内コスト	事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト	149,482	457,819	614,256	562,390
内訳	1) 公害防止コスト	10,752	1,367	161,572	155,679
	2) 地球環境保全コスト	138,230	455,952	113,460	113,510
	3) 資源循環コスト	500	500	339,224	293,201
2. 上・下流コスト	グリーン購入など事業エリアの上流側で発生する環境負荷抑制のために必要なコスト	0	0	735	75
3. 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの運用のためなどに必要なコスト	0	0	94,999	91,532
4. 研究開発コスト	環境負荷抑制に係わる製品の研究開発に必要なコスト	226,744	398,311	264,323	317,538
5. 社会活動コスト	地域住民の行う環境活動などへの寄付、支援のためのコスト	0	0	3,958	4,187
6. 環境損傷コスト	自然修復のために必要なコスト	0	0	0	0
合計		376,226	856,130	978,271	975,722

環境保全効果(CO₂換算)

効果の内容	2012年度		2013年度	
	環境負荷削減量 (t-CO ₂)	前年度比削減率 (%)	環境負荷削減量 (t-CO ₂)	前年度比削減率 (%)
二酸化炭素	11,127	4.8	609	0.3

環境負荷総量内訳

単位:t-CO₂

	2011年度	2012年度	2013年度
電気	128,110	123,150	125,318
重油	54,446	49,588	43,584
軽油	1,998	2,032	2,140
灯油	18,803	13,242	9,945
ガソリン	77	81	84
LPG	2,654	2,459	2,462
LNG	0	2,662	5,987
都市ガス	25,559	27,306	30,446
合計	231,647	220,520	219,966

2013年度環境会計の分析

2013年度の環境保全コストとして、設備投資に8億56百万円、費用に9億76百万円を投入しました。設備投資の主なものとして環境配慮商品を開発するための設備投資に3億98百万円、費用の主なものとして、廃棄物処理などに2億93百万円投入しました。

設備投資は、2012年度に比べて、4億80百万円増加、費用は、3百万円減少しました。

環境保全効果(CO₂換算)の削減量は、約0.6千t-CO₂で、削減率は0.3%でした。

環境保全対策に伴う経済効果は、3億13百万円で、2012年度比1%増加しました。

環境保全対策に伴う経済効果

単位:千円

効果の内容	2011年度	2012年度	2013年度
1. 省エネによるコスト削減	56,958	74,358	125,371
2. 有価物売却益	165,371	230,654	186,619
3. ダンボール、緩衝材などの削減	9,673	4,597	591
合計	232,002	309,609	312,581

環境会計要約情報の直近3年間の推移表


	2011年度	2012年度	2013年度
1. 環境保全コスト			
投資額(千円)	256,438	376,226	856,130
費用額(千円)	846,083	978,271	975,722
2. 環境保全効果に関する環境パフォーマンス指標			
総エネルギー投入量(千GJ)	4,571	4,454	4,542
水資源投入量(万t)	1,048	1,065	1,050
CO ₂ 排出量(万t-CO ₂)	23.2	22.1	22.0
産業廃棄物排出量(万t)	3.0	3.0	3.1
総排水量(万t)	1,048	1,065	1,050
3. 環境保全対策に伴う経済効果			
実質的效果(千円)	232,002	309,609	312,581

●集計期間…2013年6月1日～2014年5月31日

●集計範囲…三協立山㈱

生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2013年度)

三協アルミ社

工場名			新湊	佐加野	福光	福岡	
項目							
所在地			富山県射水市新堀23-1	富山県高岡市佐加野2-2	富山県南砺市小林100	富山県高岡市福岡町矢部1	
敷地面積	m ²		403,588	149,023	118,215	139,443	
建物延面積	m ²		155,847	79,963	55,308	52,783	
CO ₂ 排出量	t-CO ₂		9,147	2,321	3,148	13,875	
エネルギー使用量	GJ		194,325	47,349	62,054	373,715	
産業廃棄物排出量	t		926	21	68	5,045	
産業廃棄物リサイクル率	%		98.3	100	100	100	
水資源使用量	t		681,451	96,602	47,260	768,151	
排出ガス	SOx濃度	ボイラー	ppm	—	【490以下】 33.4	—	—
	ばいじん	ボイラー	g/m ³ N	【0.2以下】 <0.02	【0.15以下】 <0.01	—	【0.1以下】 <0.01
		乾燥炉	g/m ³ N	—	—	—	【0.2以下】 <0.01
		加熱炉	g/m ³ N	—	—	—	【0.2以下】 <0.01
	窒素酸化物	ボイラー	ppm	【150以下】 100	【180以下】 160	—	【150以下】 33
		乾燥炉	ppm	—	—	—	【230以下】 26
加熱炉		ppm	—	—	—	【180以下】 43	
公共用水域	pH	—	【6.0~8.5】 6.9~7.9	【6.5~8.5】 6.0~8.5 ^⑥	【5.8~8.6】 7.3	【5.8~8.6】 7.3~7.6	
	BOD	mg/l	—	【20以下】 15.0	【20以下】 1.5	【20以下】 16.0	
	COD	mg/l	【20以下】 6.9	【20以下】 8.9	—	【160以下】 10	
	SS	mg/l	【50以下】 20.7	【30以下】 19.5	—	【10以下】 2	
	油分	mg/l	【3以下】 <0.5	【3以下】 0.5	—	【5以下】 <1	
	ホウ素	mg/l	【10以下】 2.6	—	—	—	
	クロム	mg/l	【2以下】 <0.2	—	—	—	
	六価クロム	mg/l	【0.5以下】 <0.02	—	—	—	
	フッ素	mg/l	【15以下】 <0.8	—	—	—	
	全窒素	最大	mg/l	【60以下】 5.0	【60以下】 9.6	—	【120以下】 17
	全りん	最大	mg/l	【8以下】 0.3	【8以下】 1.1	—	【16以下】 1.9
PRTR取扱い	エチルベンゼン	t	6.4	—	—	—	
	キシレン	t	15.0	—	—	—	
	ジクロロメタン	t	—	—	—	1.2	
	1,2,4-トリメチルベンゼン	t	3.6	—	—	—	
	トルエン	t	32.0	—	—	—	
	ニッケル	t	—	—	—	1.2	
	ニッケル化合物	t	2.9	—	—	—	
	ノルマルヘキサン	t	1.1	—	—	—	
	ホウ素およびその化合物	t	—	—	—	9.1	
	メチルナフタレン	t	—	—	—	1.1	

① 「【】」は基準値を示します。国・県・市町村で定めた値と同等かもしくはより厳しい値に設定しています。

② 「—」の項目は基準値がない対象施設のない項目です。

③ 略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SOx:硫酸酸化物濃度、NOx:窒素酸化物濃度、pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、COD:化学的酸素要求量、SS:水中懸濁物質濃度

④ 「<」は数値が表示データ未満であることを示します。

⑤ 「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。

⑥ 佐加野工場のpH基準値外は、酸性雨による一時的なものです。その後の測定結果では基準値内となっています。

生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2013年度)

三協アルミ社

工場名			氷見	福野	射水	
項目						
所在地			富山県氷見市上田41-2	富山県南砺市本江2600-1	富山県射水市奈呉の江13-3	
敷地面積	m ²		68,575	118,012	266,175	
建物延面積	m ²		21,558	53,157	131,646	
CO ₂ 排出量	t-CO ₂		930	3,291	90,590	
エネルギー使用量	GJ		18,038	60,957	1,973,227	
産業廃棄物排出量	t		24	22	21,562	
産業廃棄物リサイクル率	%		100	100	98.3	
水資源使用量	t		3,950	44,550	6,436,913	
排出ガス	SOx濃度	ボイラー	ppm	—	—	—
	ばいじん	ボイラー	g/m ³ N	【0.03以下】 0.01	【0.15以下】 0.01	【0.1以下】 <0.01
		乾燥炉	g/m ³ N	—	—	【0.15以下】 <0.03
		加熱炉	g/m ³ N	—	—	【0.15以下】 0.14
	窒素酸化物	ボイラー	ppm	【140以下】 130	【150以下】 110	【180以下】 73
		乾燥炉	ppm	—	—	【230以下】 43
加熱炉		ppm	—	—	【180以下】 130	
公共用水域	pH	—	【5.8~8.6】 6.5~7.4	【5.8~8.6】 6.7	【6.0~8.5】 6.0~8.4	
	BOD	mg/l	【30以下】 4.7	【20以下】 1.3	【20以下】 14	
	COD	mg/l	—	—	【20以下】 7.0	
	SS	mg/l	【50以下】 14.0	【10以下】 3.0	【50以下】 11	
	油分	mg/l	【15以下】 <1	【15以下】 ND	【2以下】 1.3	
	ホウ素	mg/l	—	—	【10以下】 2.2	
	クロム	mg/l	—	—	—	
	六価クロム	mg/l	—	—	—	
	フッ素	mg/l	—	—	【8以下】 ND	
	全窒素	最大	mg/l	—	—	
	全りん	最大	mg/l	—	—	
P R T R 取 扱 量	キシレン	t	1.7	—	—	
	トリエチルアミン	t	—	—	8.2	
	1,2,4-トリメチルベンゼン	t	2.0	—	—	
	ニッケル	t	—	—	7.0	
	ニッケル化合物	t	—	—	23.4	
	ホウ素およびその化合物	t	—	—	6.2	
	メチレンビス(4,1-フェニル)=ジイソシアネート	t	5.0	—	—	

生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2013年度)

三協マテリアル社

タヤマアドバンス社

工場名		高岡	新湊東	石川	奈呉	横浜					
項目											
所在地		富山県高岡市北島851	富山県射水市新堀28-1	石川県羽咋郡宝達志水町杉野屋ぬ-11	富山県射水市奈呉の江8-3	神奈川県横浜市金沢区大川6-1					
敷地面積	m ²	95,825	78,264	146,963	151,457	29,386					
建物延面積	m ²	56,385	13,398	42,264	41,879	14,244					
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	1,233	5,880	17,323	69,231	671					
エネルギー使用量	GJ	27,075	133,182	445,279	1,136,111	17,837					
産業廃棄物排出量	t	23	20	2,124	793	31					
産業廃棄物リサイクル率	%	100	42.3	100	84.1	99					
水資源使用量	t	59,272	99,820	646,611	1,342,285	1,297					
排出ガス	SO _x 濃度	ボイラー	K値	—	—	【8.00以下】	ND	—	—		
		乾燥炉	K値	—	—	【8.00以下】	ND	—	—		
		加熱炉	K値	—	—	【8.00以下】	ND	—	—		
		溶解炉	m ³ N/Hr	—	—	—	【4.56以下】	0.86	—		
	ばいじん	ボイラー	g/m ³ N	—	—	【0.1以下】	<0.01	—	—		
		乾燥炉	g/m ³ N	—	—	【0.2以下】	<0.01	—	—		
		加熱炉	g/m ³ N	—	【0.2以下】	0.01	【0.2以下】	<0.01	【0.15以下】	0.02	
		溶解炉	g/m ³ N	—	—	—	—	【0.15以下】	0.07	—	
	窒素酸化物	ボイラー	ppm	—	—	【150以下】	22	—	—		
		乾燥炉	ppm	—	—	【230以下】	20	—	—		
		加熱炉	ppm	—	【180以下】	15	【180以下】	95	【120以下】	66	
		溶解炉	ppm	—	—	—	—	【150以下】	127	—	
ダイオキシン	溶解炉	ng-TEQ/m ³ N	—	—	—	—	【5以下】	0.2	—		
公共用水域	pH	—	【5.8~8.6】	6.6~8.0	【5.8~8.6】	7.1~7.8	【5.8~8.6】	6.8~7.5	【5.5~8.5】	7.2~7.7	—
	BOD	mg/l	【20以下】	10	—	—	【30以下】	5.2	—	—	—
	COD	mg/l	—	—	—	—	—	—	【20以下】	3.7	—
	SS	mg/l	【100以下】	14	—	—	【30以下】	3.0	【50以下】	4	—
	油分	mg/l	【5以下】	1.9	【5以下】	<0.5	【5以下】	0.6	【3以下】	1.6	—
	ダイオキシン	pg-TEQ/L	—	—	—	—	—	—	【10以下】	0.007	—
PRTR取引量	キシレン	t	—	—	—	—	3.7	—	—	—	
	クロムおよび3価クロム化合物	t	—	—	—	—	—	—	25.5	—	
	1,2,4-トリメチルベンゼン	t	—	—	—	—	5.1	—	—	—	
	ニッケル	t	—	—	—	—	2.5	—	—	—	
	ニッケル化合物	t	—	—	—	—	1.8	—	—	—	
	フッ化水素およびその水溶性塩	t	—	—	—	—	1.3	—	7.4	—	
	ホウ素およびその化合物	t	—	—	—	—	1.9	—	2.7	—	
	マンガンおよびその化合物	t	—	—	—	—	—	—	50.4	—	
メチルナフタレン	t	—	—	—	—	—	—	12.0	—		

①「【】」は基準値を示します。国・県・市町村で定めた値と同等かもしくはより厳しい値に設定しています。

②「—」の項目は基準値がない対象施設のない項目です。

③ 略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SO_x:硫酸酸化物濃度、NO_x:窒素酸化物濃度、pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、COD:化学的酸素要求量、SS:水中懸濁物質濃度

④「<」は数値が表示データ未満であることを示します。

⑤「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。

生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2013年度)

関連会社

項目		工場名	協立アルミ		三協化成		三協工機		サンクリエイト
所在地			富山県南砺市久戸10		富山県高岡市福岡町下向田3-1		富山県高岡市戸出春日802		富山県南砺市岩武新80番地の1
敷地面積		m ²	116,000		66,743		13,000		47,082
建物延面積		m ²	62,000		16,435		5,700		7,616
CO ₂ 排出量		t-CO ₂	2,449		3,816		1,077		2,238
エネルギー使用量		GJ	59,117		59,987		28,902		44,802
産業廃棄物排出量		t	2,378		165,617		33		71
産業廃棄物リサイクル率		%	99		97.9		97.8		83
水資源使用量		t	41,213		150,427		18,477		6,408
公共用水域	pH	—	【5.8~8.6】	8.0	【5.8~8.6】	7.8	【5.8~8.6】	7.5	—
	BOD	mg/l	【20以下】	<1	【10以下】	1.0	【25以下】	2.9	—
	COD	mg/l	—	—	—	—	—	—	—
	SS	mg/l	【70以下】	1	【10以下】	<2	【120以下】	3	—
	油分	mg/l	【5以下】	1.0	【3以下】	<0.5	【15以下】	ND	—
	クロム	mg/l	—	—	—	—	—	—	—
	六価クロム	mg/l	—	—	—	—	—	—	—
	亜鉛	mg/l	—	—	—	—	—	—	—
	溶解性鉄	mg/l	—	—	—	—	—	—	—
	シアン	mg/l	—	—	—	—	—	—	—
P R T R 取扱量	アンチモン	t	—	—	3.1	—	—	—	—
	キシレン	t	1.3	—	—	—	—	—	—
	ジクロロメタン	t	13.4	—	—	—	—	—	—
	トリメチルベンゼン	t	1.5	—	—	—	—	—	—
	鉛化合物	t	—	—	0.2	—	—	—	—
	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	t	—	—	115.5	—	—	—	—
	メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	t	18.7	—	—	—	—	—	—

項目		工場名	三精工業(本社)		三精工業(有磯)		STメタルズ(西朴木)		STメタルズ(海老坂)	
所在地			富山県射水市奈呉の江13番地の8		富山県射水市有磯二丁目33番地の4		富山県氷見市西朴木38		富山県氷見市上田子字笹谷内58	
敷地面積		m ²	46,326		44,236		41,996		110,240	
建物延面積		m ²	30,533		16,150		14,684		11,514	
CO ₂ 排出量		t-CO ₂	2,795		1,206		28,634		59,341	
エネルギー使用量		GJ	1,311		570		266		292	
産業廃棄物排出量		t	1,015		457		24		613	
産業廃棄物リサイクル率		%	87.3		96.7		99		99	
水資源使用量		t	359,160		137,970		1,363		2,075	
公共用水域	pH	—	【6.0~8.0】	6.8~7.1	【6.0~8.0】	6.6~7.3	【5.8~8.6】	7.5~7.9	【5.8~8.6】	7.2~9.2 ^⑦
	BOD	mg/l	—	—	—	—	—	—	【160以下】	24
	COD	mg/l	【20以下】	6.5	【20以下】	4.0	【30以下】	7.0	【160以下】	37
	SS	mg/l	【20以下】	1.5	【20以下】	1.5	【70以下】	2	【200以下】	12
	油分	mg/l	【3以下】	0.4	【3以下】	0.3	【3以下】	<1	—	—
	クロム	mg/l	—	—	【0.3以下】	0.01	—	—	—	—
	六価クロム	mg/l	—	—	【0.15以下】	ND	—	—	—	—
	亜鉛	mg/l	—	—	【3以下】	0.3	—	—	—	—
	溶解性鉄	mg/l	—	—	【5以下】	0.1	—	—	—	—
	シアン	mg/l	—	—	【0.25以下】	0.02	—	—	—	—
P R T R 取扱量	エチルベンゼン	t	31.5	—	—	—	—	—	—	—
	キシレン	t	56.3	—	1.9	—	—	—	—	—
	1,3,5-トリメチルベンゼン	t	2.5	—	—	—	—	—	—	—
	トルエン	t	42.0	—	1.7	—	—	—	—	—
	鉛化合物	t	—	—	0.8	—	—	—	—	—

⑦ STメタルズ(海老坂)のpH 基準値超過は、水中の藻の影響によるもので、排水自体は問題ありません。

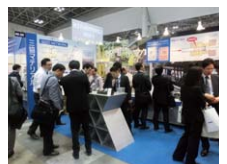
環境保全活動の歩みとグループのこの一年

〈環境保全活動の歩み〉

- 1967年 ●公害対策基本法制定
- 1971年 ●本社技術部に公害防止対策部署を設置
[三協アルミ](以降 各工場に環境保全課を設置)
- 1993年 ●環境基本法制定
●ボランティアプラン策定[三協アルミ]
(環境理念・環境スローガンの制定)
- 1996年 ●特定フロン全廃完了
- 1998年 ●福光、福野工場の表面処理設備廃止
- 1999年 ●立山合金 石川工場(現 石川工場) ISO14001認証取得
●全社の環境方針制定[三協アルミ]
(課題別委員会の設置、活動開始)
- 2000年 ●循環型社会形成推進基本法の制定
●新湊工場、氷見工場 ISO14001認証取得
●佐加野工場の表面処理設備廃止
●本社生産本部に環境対策部を設置[立山アルミ]
- 2001年 ●環境報告書の発行[三協アルミ]
●グループ全社でトリクロロエチレンの使用を全廃
●福野工場、佐加野工場 ISO14001認証取得
●富山軽金属(現 射水工場) ISO14001認証取得
●富山合金(現 奈呉工場) ISO14001認証取得
●社内向け「環境宣言」発表[立山アルミ]
(テーマ別委員会の設置、活動開始)
- 2002年 ●行動指針の社員カード発行[三協アルミ]
●高岡工場 ISO14001認証取得
- 2003年 ●「環境への取り組み」をホームページに掲載[立山アルミ]
●福光工場、福岡工場 ISO14001認証取得
- 2004年 ●三協化成 ISO14001認証取得
- 2005年 ●新湊マテリアル工場(現 射水工場)、新湊工場
都市ガス(天然ガス)の導入
- 2006年 ●三精工業、三協工機、サンクリエイト、協立アルミ、
タテヤマメタックス(現 STメタルズ西朴木工場)
ISO14001認証取得
- 2007年 ●横浜工場 ISO14001認証取得
- 2008年 ●「チーム・マイナス6%」参加
●横浜工場 ISO14001を拡大取得
- 2010年 ●富山合金 三協マテリアルに統合(現 奈呉工場)
- 2011年 ●タテヤマアドバンス横浜工場めっき事業廃止
- 2013年 ●福岡工場、石川工場 天然ガスの導入
●高岡市と「森づくり」活動に関する協定調印
(森づくり活動開始)

〈グループのこの1年〉

- 2013年
 - 6月 ●三協アルミ 関西エクステリアフェア2013に出展
●三協マテリアル
第17回機械要素技術展に出展
●三協アルミ 氷見工場ペンギンサークル
「全日本選抜QCサークル大会」で「銀賞」
 - 7月 ●三協アルミ
「UBキーガル」と「ナノイー搭載内部額縁」が
第7回キッズデザイン賞を受賞
●三協立山「企業の森づくり活動」第1回活動を実施
●三協立山 フィリピン現地法人設立
 - 8月 ●三協立山 第68回定時株主総会
 - 9月 ●タテヤマアドバンス
第55回サイン&ディスプレイショウに出展
 - 10月 ●三協アルミ
「SACLAB」プレス発表会・フォーラム・展示会開催
 - 11月 ●三協立山 フィリピン台風被害に対して義援金を寄贈
●三協アルミ
採風玄関ドア「ラフォース」が第51回富山県発明とくふう展で
富山県発明協会会長賞を受賞
玄関ドア「ナチュラル」が平成25年度中部地方発明表彰式
にて富山県発明協会会長賞を受賞
●三協立山
「富山県並行在来線経営安定基金に係る感謝状贈呈式」にて
富山県より感謝状授与
●三協立山
「ツインリーフの森づくり」記念式典・植樹活動を実施
 - 12月 ●三協立山 石川精機株式会社の株式取得(子会社化)
- 2014年
 - 1月 ●三協立山 タイに現地法人設立
●三協立山 子会社三協工機株式会社を吸収合併
 - 2月 ●三協アルミ
第7回 三協アルミ建築フォーラム開催
●三協アルミ
「ARM-S@NAV」がドイツの
「iFデザイン賞2014」を受賞
 - 3月 ●三協立山
株式会社リョーサン・ヒートシンク生産事業に係る株式取得
●タテヤマアドバンス ドイツ「Euro Shop 2014」に出展
●富山県高岡市金屋町に「竹平政太郎記念室」開設
 - 4月 ●三協アルミ エクステリア・エキシビション2014に出展
●三協立山 産業観光振興として工場見学受け入れ開始
●三協立山「ツインリーフの森づくり」根踏み活動を実施
●三協マテリアル
第1回高機能金属展に出展
 - 5月 ●三協立山
【BCリーグ公式戦】
「東日本大震災遺児育英支援冠試合」
として三協立山グループ冠試合を開催



三協立山グループ 「CSR 報告書 2014」を読んで

神戸大学大学院経営学研究科
教授 國部 克彦



CSRを通じた地域社会への価値創造

今年度の報告書では経営トップが冒頭でCSV(Creating Shared Value)に言及されるなど、事業活動を通じた価値創造が強調されています。三協立山グループは地域密着型の企業ですから、地域社会に対して価値を生み出すことは、企業だけでなく地域全体を活性化することにつながり、CSR活動の根幹に据えられていることは高く評価できます。「ツインリーフの森づくり」や「植物工場」などの取り組みは、会社を上げて取り組んでいることが分かり、今後の展開が期待されます。今後は、価値創造という点からすれば、このような活動が、企業及び社会に対してどのような価値を生み出すのか、今後どのように発展させていくのかなどについても、継続的に報告していただくことを期待しています。

体系的なCSR・環境経営活動

三協立山グループのCSR及び環境経営活動は体系的かつ網羅的で重要なポイントは押さえておられ、活動成果も順調に推移していると認められます。環境に関しては、詳細なデータ開示を継続しておられ、この点でも高く評価することができます。ただ、CSVに関しては、CSRや環境経営活動の中に、目標や指標として明確にした形では取り入れられていないように見受けられます。今後、CSVをCSRの一つの中心にされるのであれば、是非価値創造に関する目標を掲げて、CSRマネジメントのサイクルの中に組み込んでいただければと思います。そのためには、いくつかの目標となる新しい指標が必要になるでしょう。特に、植物工場の活動などは、このような目的にも適合的ではないかと考えます。

ダイバーシティの先進企業として

三協立山グループのCSRのもうひとつの特徴が、先進的なダイバーシティマネジメントです。特に、女性の活用に関しては、積極的に取り組んでおられ、大きな成果をあげられていることが分かります。女性の活用は多くの日本企業にとって大変重要な使命ですので、三協立山グループの取り組みは貴重です。多くのステークホルダーがその内容をもっと知りたいと望むでしょうから、今後はダイアログのような試みをされても面白いかもしれません。また、ダイバーシティの対象は女性だけでなく、高齢者や外国人、社会的弱者など様々ですから、地域特性を生かしたさらに高度なダイバーシティマネジメントを実現されるよう、期待しています。

三協立山 会社概要

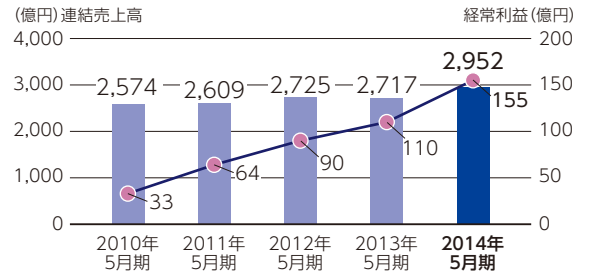
会社名 三協立山株式会社
 (英文名称 Sankyo Tateyama, Inc.)
設立年月日 1960年6月20日
所在地 本社 富山県高岡市早川70番地
 東京オフィス
 東京都中野区中央1-38-1<住友中野坂上ビル20F>
代表者 代表取締役会長 藤木 正和
 代表取締役社長 山下 清胤
URL <http://www.st-grp.co.jp/>

(2014年5月期)

資本金 150億円
従業員数 5,759名
連結従業員数 8,841名
連結売上高 2,952億36百万円
経常利益 155億53百万円
総資産 2,342億43百万円
事業内容

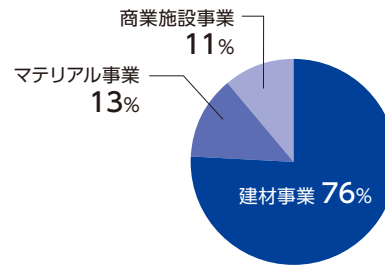
1. ビル用建材・住宅用建材・エクステリア建材の開発・製造・販売。アルミニウムおよびその他金属の圧延加工品の製造・販売。
2. アルミニウムおよびマグネシウムの鋳造・押出・加工ならびにその販売。
3. 店舗用汎用陳列什器の販売。規格看板・その他看板の製造・販売。店舗および関連設備のメンテナンス。

○連結売上高および経常利益



※2012年5月期までは三協・立山ホールディングス株式会社の実績

○事業別売上げ構成比 (2014年5月期)



三協立山株式会社

三協アルミ社<建材事業>

環境・安心への配慮と機能美を追求したデザインで快適な住空間を提供する住宅・エクステリア建材と高度な建築に最新技術で応えるビル建材の開発・生産・販売を行っています。

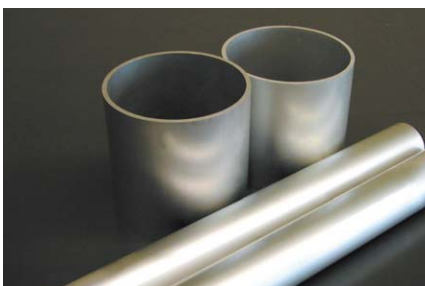
- 住宅建材** 玄関ドア、窓、防犯配慮商品、インテリア建材、窓まわり商品、その他
- エクステリア建材** 門扉、フェンス、カーポート、テラス、サンルーム、サイクルポート、通路シェルター、その他
- ビル建材** サッシ・ドア、カーテンウォール、改装、フロント、手すり、内外装建材、環境商品、その他



三協マテリアル社<マテリアル事業>

アルミニウム、マグネシウム合金の押出形材を中心に、輸送・電気・産業機器の部材等、多様な用途向け製品を手がけています。合金鋳造から押出・加工までの一貫生産体制を整えています。

- アルミニウム、マグネシウムの鋳造・押出・加工**
 押出加工品採用実績：電気機器、輸送機器、産業機械、OA機器、土木・仮設資材、家具、福祉機材、その他
 ……………
 鋳造：アルミニウム合金ビレット、マグネシウム合金ビレット



タテヤマアドバンス社<商業施設事業>

店舗什器とサイン・看板を軸に、店舗づくりの提案から、設計・製作・施工・メンテナンスまでトータルに行っています。海外での生産・販売拠点を中国上海に置いています。

- 商業施設** 汎用・専用什器、カウンター、ディスプレイ什器、その他
- サイン** スタンドサイン、ファサードサイン、突出しサイン、大型サイン、壁面・吊下げサイン、掲示板、屋内外サイン
- 店舗メンテナンス** 店舗メンテナンス、店舗リニューアル



編集方針

「CSR報告書2014」の発行にあたって

三協立山グループでは、ステークホルダーの皆様への適切な情報開示を重要と考えています。

2001年に「環境報告書」として環境保全活動に関する情報開示をスタートしました。2005年からは「社会・環境報告書」として社会性に関する取り組みについても報告してきました。そして2007年からは、より自主的に社会的責任を果たしていく姿勢を明示し、タイトルを「CSR報告書」と改め、現在に至っています。

今回の報告書では5つの特集を設けています。

特集1「森づくり活動」では、さまざまな恩恵を与えてくれる森林に感謝の気持ちを込めて、地元高岡市で行っている活動を紹介しています。

特集2「植物工場」では、地域の農業の発展のために、工場のものづくりのノウハウを活かす取り組みをレポートしています。

特集3「女性活躍」では、女性のこまやかな感性を大切にして企画された商品の、開発担当者の声を集めてみました。

特集4「モバイルブリッジ」では、緊急仮設橋開発への参画を通じて、社会に貢献する想いを記載しています。

特集5「SACLAB(サクラボ)」では、著名建築家の斬新な発想を商品化し、新しい住空間を創造する取り組みを紹介しています。

これらを通して、当社が掲げる、環境技術をキーワードとした「新しい価値」を創造する取り組みや、社会への貢献の想いを感じていただけたら、幸いです。

なお、読みやすさへの配慮のためユニバーサルデザインフォントを使用しています。

対象期間

2013年6月1日から2014年5月31日

活動内容については、一部2012年度以前のもの、および2014年度のものも含まれます。

対象範囲

●三協立山株式会社

- 三協アルミ社：新湊工場、佐加野工場、福光工場、福岡工場、氷見工場、福野工場、射水工場
- 三協マテリアル社：高岡工場、新湊東工場、石川工場、奈呉工場
- タテヤマアドバンス社：横浜工場
- 関連会社：ST物流サービス、協立アルミ、三協化成、三協工機、サンクリエイト、三精工業、STメタルズ

参考にしたガイドライン

- ・環境省「環境報告ガイドライン(2012年版、2007年版)」
- ・環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」





 三協立山株式会社

総務部 CSR・コンプライアンス推進課
〒933-8610 富山県高岡市早川170番地
電話 0766-20-2550 FAX 0766-20-2082
ホームページアドレス <http://www.st-grp.co.jp/>